



J C I K U M A M O T O 6 5 T H
1955-2020

The Creed of Junior Chamber International

We Believe: That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best
be won by free men through free enterprise;
That government should be of laws rather than of men;
That earth's great treasure lies in human personality;
and That service to humanity is the best work of life.

我々はかく信じる：
「信仰は人生に意義と目的を与え人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず法によって運営さるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり人類への奉仕が人生最善の仕事である」

JCI MISSION

To provide development opportunities
That empower young people to
create positive change
より良い変化をもたらす力を青年に与えるために発展・成長の機会を提供すること

JCI Vision

To be the leading global network of young active citizens
若き能動的市民の主導的なグローバル・ネットワークになること

JC 宣言

日本の青年会議所は 混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が 生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱 領

われわれ JAYCEE は 社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ 青年としての 英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう



JCI Junior Chamber International Kumamoto
一般社団法人 熊本青年会議所
創立 65 周年記念誌

CONTENTS

JCI クリード 01

JCI ミッション並びに JCI ビジョン

JC 宣言文・綱領

目次 02

ごあいさつ・祝辞 03

一般社団法人 熊本青年会議所 第 66 代理事長 渡邊俊一郎

熊本 JC シニアクラブ 会長 木村光男 様

熊本県知事 蒲島郁夫 様

熊本市長 大西一史 様

熊本商工会議所 会頭 久我彰登 様

公益社団法人 日本青年会議所 2020 年度 会頭 石田全史 様

[スポンサー JC] 一般社団法人 宮崎青年会議所 2020 年度 理事長 黒田福太郎 様

[姉妹 JC] 公益社団法人 福井青年会議所 2020 年度 理事長 見谷頼貞 様

[姉妹 JC] JCI Tanjung Bunga 2020 Local President Jamie Tiow Choo Ning 様

[姉妹 JC] 仁徳国際青年商會 2020 年度 會長 林奎佑 様

公益社団法人 日本青年会議所 九州地区協議会 2020 年度 会長 江口尚登 様

公益社団法人 日本青年会議所 九州地区 熊本ブロック協議会 2020 年度 会長 安田量寛 様

[友好 JC] 一般社団法人 延岡青年会議所 2020 年度 理事長 梶原靖正 様

理事長総覧 09

歴代理事長紹介 1955 年～2014 年

2015 年～2019 年 理事長紹介・創立 65 周年 特別記念対談

5 年間の歴史/2015-2019 25



【ごあいさつ】

一般社団法人熊本青年会議所
第66代理事長

渡邊 俊一郎

令和の時代が始まり、JC宣言文が変わろうとしている。青年会議所の活動や運動が時代と共に変化していく中で、変わらないものがある。それは脈々と継承してきた「志」である。

克己復礼 〜礼節を持ち行動しよう〜 のスローガンのもと、本年はその「志」を纏い活動してまいりました。

一般社団法人熊本青年会議所が創立65周年を迎えるにあたりまして、創始より今日に至るまでご尽力いただきました先輩方に、また私たちの活動や運動に対して多くの御支援、お力添えを賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。

熊本青年会議所は「1953年白川大水害」の後、まちの再建に立ち上がった43名の有志が、一般社団法人宮崎青年会議所をスポンサーに仰ぎ、1955年4月26日に日本で66番目の青年会議所として誕生しました。それ以来、青年らしい運動を追求し「明るい豊かな社会の実現」を理念に掲げ、その時代に即しながら行動を興してまいりました。そして、単年度制のもとで毎年「歴史から学び」65年間この精神を引き継いできたことは、私たちの誇りであります。

2016年4月熊本地震。未曾有という言葉では表せない状況におかれながらも、私たちは歩みを止めませんでした。なぜなら「志」を纏うメンバーが多くいたからです。そして私たちは、熊本地震の復興ビジョンとして「熊本城の完全復活」、「仮設住宅ゼロ」、「落ち込んだ経済の復興」を三本柱に復興支援を継続的に行ってきました。

そして2020年現在、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により日本では緊急事態宣言が発出され、ビジネス環境の見通しも未だ不透明な状況が続いているなど、経済的にも近年で最悪の状況に直面していると言えます。また、学校の一定期間封鎖により、子どもたちは恐怖や不安を抱えている状況に追い込まれていることも懸念されています。そして私たち、熊本青年会議所の活動においても、制限せざるを得ない状況となり、今まで当たり前に行っていた会議や事業の形を大きく変える必要に迫られました。

日本は人口減少、高齢化社会が到来し、世界はグローバル化から、自国第一主義が台頭し世界が分断される時代を迎える中、馬車から車へ、そしてその車の自動運転化が2035年頃にはAIデバイス化により当たり前の世の中に変わるパラダイムシフトが起こっています。同じように2020年、年初にはなかった価値観の中で、コロナウイルスとも共生していくことが求められています。そのような中で私たちは、未来を描く責任があります。それは、まちの再建に立ち上がり、創立から65年が経った現在まで、常に地域の危機と真っ向から向き合い、課題を解決に導いてきた歴史を、絶やすことなく紡いでいかなければならないからです。改めて創始の精神に立ち返り、私たちは熊本青年会議所の存在意義を再確認し、私たちが住み暮らすくまもとの未来の為、次代を担う子どもたちの為に今後も行動し続けてまいります。そして、これからも「歴史から学び」社会に必要とされ続ける組織を目指し進んでいくことで、私たちは地域に貢献し続けることをお約束申し上げます。

結びとなりますが、創立65周年記念誌発行にあたってご協力いただきました先輩方をはじめ多くの方に感謝申し上げますと共に、今後とも一般社団法人熊本青年会議所の活動にご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



【ごあいさつ】

熊本JCシニアクラブ
会長

木村 光男

一般社団法人熊本青年会議所の創立65周年を祝し、熊本JCシニアクラブを代表してお祝いの言葉を申し上げます。

また、本年熊本JCシニアクラブも40周年を迎えることが出来ました。この場をお借りしてシニアクラブ会員の皆様に感謝申し上げます。

さて、修練・奉仕・友情の三信条を旨に活動を積み重ねてきた熊本青年会議所は、65周年の歴史を刻みながら着実に活動地域の熊本市にとって欠かせない組織に成長してきました。

しかしながら、高齢化などの社会情勢の変化は、全国的にJC会員の減少に影響を与え、運営に支障をきたすLOMも増えつつあるとの話も聞いております。熊本青年会議所も厳しい環境での運営をされていることと存じます。おのずとこの65年の節目で組織の存在意義や組織体制の見直しも必要となるでしょう。

ここ数年来多発する自然災害でのボランティア活動や、コロナ渦での飲食業界への支援など地域に目指した活動を展開してこられました。JCの特性は地域社会での活動を基盤にブロック、地区、日本、そして世界へのつながりを保ち、単年度で活動し、40歳までの定年制であることです。このことで、組織を活性化し、常に時代の変化に対応できる体制になっています。その特性を活かし、熊本の地域にとっても、会員にとってもかけがえのない組織になることを切望致します。

シニアクラブの会員は、活動時期は違えども熊本青年会議所での活動を通じて、何らかの感動を持ち、出来ればその時代に戻りたいとの思いがあります。まさしく今その時期を活動する皆さんには修練・奉仕・友情の三信条を旨に、新しき世の希望となる様、更にご活躍されることをご祈念申し上げ、祝辞といたします。



【祝 辞】

熊本県知事

蒲 島 郁 夫

一般社団法人熊本青年会議所が創立65周年を迎えられますことを心からお慶び申し上げます。

渡邊理事長をはじめ、歴代の理事長や会員の皆様方におかれましては、「明るい豊かな社会の実現」という理想のもと、熊本の未来のために活動を継続されてきたことに、心から敬意を表します。

これまで熊本青年会議所では、若い力を結集し、豊かな郷土の発展と地域の活性化を目指した様々な活動を展開してこられました。65年という長きにわたる皆様方の歴史ある活動は、熊本の発展に多大なる貢献を果たしてこられたとともに、本県が目指す「県民総幸福量の最大化」にも大いに寄与していただいています。日頃からの県への御支援、御協力に改めて厚く御礼申し上げます。

さて、熊本地震から4年が過ぎ、復旧・復興が着実に進む一方で、全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、県民生活や県経済に深刻な影響が及んでいます。また、そのような中、7月の豪雨災害により、県南地域を中心に甚大な被害が発生しました。県では、発災直後から、人命救助、孤立集落の解消、被災者の支援に全力で取り組んで参りました。熊本青年会議所の皆様におかれましては、現地でのボランティア活動や救援物資の供給など被災地支援に御尽力いただきましたことに重ねて感謝申し上げます。

現在、被災者の一日も早い生活と生業(なりわい)の再建など、本格的な被災地の復興に向けて、新設した専任組織である「球磨川流域復興局」を中心に、将来にわたって流域住民の生命・財産を守り安全・安心を確保しながら、流域の自然と豊かな恵みを楽しみ、持続可能な地域の再生を目指す「グリーン・ニューディール」を柱に全力をあげて取り組んでいるところです。

熊本地震、球磨川流域の創造的復興を成し遂げ、持続可能な社会を実現するためには、地域を支え、次代を担う人材の確保・育成が必要です。今後も皆様をはじめとした関係機関と連携を図りながら、人づくりや若者の地元定着など地方創生につながる取組みをより一層、進めて参りたいと考えています。熊本青年会議所が受け継いでこられた歴史と伝統のもと、若い世代の皆様が地域の担い手として存分に活躍されることを大いに期待しています。

最後に、一般社団法人熊本青年会議所の今後益々の御発展と皆様方の御健勝を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。



【祝 辞】

熊本市長

大 西 一 史

このたび、一般社団法人熊本青年会議所が創立65周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

渡邊理事長をはじめ、熊本青年会議所の皆様におかれましては、1955年の結成以来、「明るい豊かな熊本」の実現を目指し、日頃よりまちづくりや青少年育成事業など、熊本の未来のためにご尽力を賜り、心から敬意と感謝の意を表します。

また、平成28年熊本地震の発生以降、「熊本城の完全復活」、「仮設住宅ゼロ」、「落ち込んだ経済の復興」を三つのビジョンとして掲げ、継続的な支援を行っていただいておりますことに、改めて厚く御礼を申し上げる次第でございます。

ご承知のとおり、私たちが熊本地震からの復興の歩みを進める中、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、市民の皆様のご生活と社会経済活動に深刻な影響を及ぼすとともに、本年7月には熊本県南部を中心に豪雨による甚大な被害が発生し、今もなお被災された多くの方々が避難所等での生活を余儀なくされております。

熊本青年会議所の皆様におかれましては、本市へのマスクの寄贈やドライブスルー型テイクアウト事業など感染対策に配慮した飲食店支援事業に取り組まれたほか、令和2年7月豪雨災害では、迅速な被災者ニーズ調査や人的・物的支援、並びに被災地での炊き出しを行うなど、被災地支援にもご尽力されておりますことに深く敬意を表する次第です。

本市におきましても、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて、国の「基本的対処方針」に基づき県と連携し、対策に取り組む一方、国の総合経済対策や補正予算等とともに本市独自の対策を展開し、地域経済への影響の最小化に努めてまいりました。また、現下の市民生活や経済への影響を分析し、必要な対策を計画的に実施するため、現在「熊本市経済再建・市民生活安心プラン」を策定しているところでございます。

このプランをもとに、引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るとともに、熊本青年会議所の皆様と連携し、地域経済の速やかな回復、さらには持続的な発展に繋げてまいりたいと考えておりますので、皆様方には、なお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、熊本青年会議所が創立65周年を迎え、更なる発展を遂げられますようご期待申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



【祝 辞】

熊本商工会議所会頭

久 我 彰 登

一般社団法人 熊本青年会議所の創立65周年を心よりお祝い申し上げます。

貴所におかれましては、昭和30年4月の創立以降、永年に亘り、若きバイタリティを存分に発揮され、熊本の発展、豊かな地域社会の実現に向けた様々な事業に取り組んでこられました。その多岐にわたる事業活動は、地域の人々からも高く評価され、強く支持されております。

また創立当時、第一回目の理事会を私ども熊本商工会議所の会頭室にて開催され、事務局も商工会議所内に置かれていたと聞き及んでおります。

このように創立時から密接な関係にあった貴所が、めでたく創立65周年を迎えられましたことは誠に喜ばしいことであり、重ねてお慶びを申し上げます。

創立65年の節目にあたる今年度は、渡邊 俊一郎理事長のもと、「克己復礼～礼節を持ち行動しよう～」をスローガンとし、コロナ禍で自粛要請を受けた飲食店の応援プロジェクト「ドライブスルースタジアム in 水前寺競技場」をはじめ、令和2年7月豪雨被災地への物資供給や人的支援など、郷土くまもと復興・再建に向けた様々な活動に取り組まれております。

また、平成28年熊本地震の際には、青年経済4団体による「J I Y U くまもと連絡会議」を発足され、当所青年部連合会等とともに益城町広安西小学校の子供たちに元気を届けるためスクールバスの贈呈等を行われました。

率先垂範となるこれらの取り組みは、貴所の先輩諸氏が築き上げられた伝統と、その志を受け継いだ会員各位の研鑽と努力の賜物であり、衷心より敬意を表します。

熊本商工会議所におきましても、地域総合経済団体として、関係行政機関への提言活動はもとより、中小企業支援やまちづくり、中心市街地活性化など、地域の発展に向けた様々な事業に積極的に取り組んでおります。

今後とも皆様との連携を深めながら、コロナや災害からの復旧に止まらず、未来を担う子どもたちが夢を持って、郷土に魅力と誇りを感じられるよう、活気に溢れる「熊本」づくりを目指して参りたいと考えております。

皆様の更なるご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、熊本青年会議所の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



【祝 辞】

公益社団法人 日本青年会議所
第六十九代会頭

石 田 全 史

この度、一般社団法人熊本青年会議所が創立65周年の佳節を迎えられますことに、衷心よりお喜びを申し上げます。創立から今日に至るまでご尽力されてこられました先輩諸兄姉の皆様のご功績に敬意を表するとともに、その誇り高き「志」を受け継ぎ、自己の修練と社会への貢献に邁進されております、現役会員の皆様にお祝いを申し上げます。

65年前の設立当時の創始の精神から、これまでの歴史を振り返る。そして地域の明るい未来について考え、今起きている変化を起点に新しい社会を切り拓く節目となる年に、その灯を絶やさず青年会議所運動の展開に邁進されております皆様のご活動とご功績に敬意を表する次第でございます。目まぐるしく情勢が変わりゆく中だからこそ、社会に大きなインパクトをもたらす運動が、これからも全国各地で求められます。青年会議所にとって一つの転機である節目の年には、これまでの運動を検証した上で、共感をもたらす中・長期的なビジョンを描くことが必要であります。魅力あるビジョンはたくさんの若者に夢と希望を与え、誰からも求められる魅力ある組織へと進化することができます。私たちの運動の成果を最大限に発揮するとともに、あらゆる運動において多くの共感を集めることが組織の拡大につながり、より盤石な組織体制を構築することができるのです。

挑戦する前から無理だと決めつける、そのような先入観は捨て、大きな夢を語り、仲間を集めて、共に未来を創りましょう。自分の信じた道を貫くことが「真実一路」であり、奇跡とは努力と挑戦の連続の先に起きる成果であります。我々は、必ずより良い変化を起こすことができるのです。

結びに、熊本青年会議所のますますのご発展と会員の皆様のご活躍、さらには皆様の運動が、愛する地域において素晴らしい成果が発揮されますことを心より祈念申し上げます。

真実一路 軌跡を紡ぎ、奇跡を起こそう！



【祝 辞】

[スポンサー JC]
一般社団法人 宮崎青年会議所
2020年度理事長

黒田 福太郎

2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、全国各地で度重なるこれまでに経験したことない豪雨、そして、2020年は感染症のパンデミック(世界的大流行)。多くの人々が自分の健康・仕事に不安を感じ、社会や親しい人とのつながりの断絶に大きなストレスを感じています。この様な閉塞感に苛まれ、困難に押しつぶされそうな時こそ、青年会議所の時代を切り拓く柔軟な発想力と溢れる情熱をもった行動が、今の日本に必要な不可欠であります。感染拡大の影響を予測しても、その先にあるのは不安だけです。むしろコロナ禍の終息後に「どうありたいのか」「どうあるべきなのか」「今、解決すべき課題は何か」これを走りながら建設的に創造する知恵がリーダーシップであり、それによってしか本当の答えは見つかりません。有事の今だからこそ、青年会議所のリーダーシップが試されているのです。歩みを止めることなく、共に取り組んでいきましょう。

結びに、JCI熊本の皆様が創立65周年をきっかけとし、新たな飛躍へ向けて、さらに力強く歩まれることを心からご期待申し上げ、両青年会議所が相互友情を育みつつ切磋琢磨して、協力支援関係が変わることなく続くことを記念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

JCI熊本が創立65周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。そして、渡邊俊一郎理事長をはじめとするメンバーの皆様が、「克己復礼〜礼節を持ち行動しよう〜」をスローガンに、愛する郷土のためにひとづくり・まちづくり運動へ積極的に行動され、歴史と伝統のある熊本の地において素晴らしい功績を残されていますことに心から敬意を表します。

さて、世界経済は混乱しています。新型コロナウイルスの感染拡大による「コロナショック」は、中国・欧州・米国をはじめ地球規模へと拡大しました。多くの国・地域が非常事態宣言を発令し、主要都市が次々とロックダウンに追い込まれました。世界経済が、そして人類が「想定外の有事」に瀕しています。過去を振り返ると、2008年のリーマン・ショック以降、想定外のショックが立て続けに発生し、その都度危機的な経済状況に陥っています。

一般社団法人熊本青年会議所創立65周年の慶事にあたり、渡邊俊一郎理事長をはじめとする青年会議所の同士の皆様、また熊本青年会議所の歴史を紡いで来られた諸先輩方に対し、姉妹JCである公益社団法人福井青年会議所を代表してお祝いを述べさせていただきます。

貴青年会議所と当青年会議所が1996年に姉妹JCとなって来年で25周年を迎えます。当青年会議所にとって、貴青年会議所は常に憧れ、尊敬し、追いつこうとする存在です。2017年に当青年会議所は全国城下町シンポジウム福井大会を主管しました。これも2014年に貴青年会議所が全国城下町シンポジウムを主管した際、副主幹として関わらせていただき、貴青年会議所が市民の皆様やJCメンバーに対して堂々と熊本の魅力を発信している姿を見て、自分たちも同じように福井を発信したいと想い実現した経緯でした。福井大会の際には大会運営方法のご教授等、様々なご協力をいた

だき、無事実施に至ることができました。我々に大きな学びの機会を与えていただいたことに対しては今でも感謝が尽きません。

また貴青年会議所とは、毎年の年賀の会にはお互いにメンバーが行き来し交流するとともに、サマーコンファレンスでは合同のLOMナイトを開催させていただいております。加えて、当青年会議所のメンバーが日本青年会議所に人材を輩出する際は、貴青年会議所からも同じ委員会にメンバーを輩出いただき、ご配慮をいただいております。様々な機会での交流の機会をいただき、貴青年会議所に対する親愛の念は年々深まっているところです。災害が発生した際は、真っ先にお互いの安否を確認しあうことが当たり前になっています。2018年の福井豪雪の際は、真っ先に貴青年会議所からご連絡をいただきました。2016年の熊本地震や本年の熊本県南部の豪雨災害に際しては、当青年会議所も微力ながら募金活動をさせていただきました。もはやお互いが家族のように想いあう関係となっています。

本年は新型コロナウイルスの影響により日本全体で多大な影響が発生しています。しかし、貴青年会議所はこの困難を乗り越えて、今後も地域を引っ張るリーダーとして活動されていくことでしょう。当青年会議所も負けずに追いかけて行きたいと思えます。最後に、今後も貴青年会議所が益々ご発展され、また我々との友好も変わらず続いていくことをご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



【祝 辞】

[姉妹JC]
公益社団法人 福井青年会議所
2020年度理事長

見谷 頼 貞



[姉妹JC]

Jamie Tiow
2020 Local President
JCI Tanjung Bunga

JCI is a wonderful organization and has contributed significantly to the global community. As a global citizen, it is our responsibility to ensure that the future generation will inherit from us a healthy earth. Let's play our role responsibly, not only with a thought for the future but also translate into actions. Let's continue to make JCI the leading organization in our community.

Please accept JCI Tanjung Bunga best wishes for a most memorable anniversary celebration.

【祝 辞】

I am Jamie Tiow, the 2020 Local President of JCI Tanjung Bunga. I am pleased to offer my heartiest congratulations to JCI Kumamoto's 65th anniversary.

Due to the COVID-19 pandemic, we regret that we are unable to visit Kumamoto this year as the Malaysia's border remains closed as of now. We look forward to visiting you and your team once we recover from this COVID-19 pandemic.

As the Member of JCI, I would like to thank JCI Kumamoto for your 65 years of dedication to serving others and creating positive change, especially in 2020, a very challenging year for us all. This special milestone gives you an opportunity to reflect upon your proud history and achievements, while honoring the ties of fellowship that have contributed to your success as part of one of the world's foremost voluntary community service organizations.

I would like to commend each one of you for responding to humanitarian concerns with generosity and compassion. Local community benefits from the spirit of giving and service to others that is a value of the JCI member.

All the lights of the world cannot be compared even to one ray of inner light of the self. And when JCI members come together in love and service, those rays of inner light burn more brightly together. In the years to come, this is my wish for your chapter: that the flame of love and devotion burn in your hearts, that the light of understanding shine in your minds, that the warmth of harmony glow in your homes, and that the bright rays of service shine forth ceaselessly from your hands.

JCIタンジュンブンガ2020年度理事長を拝命しておりますジェイミー・チウです。一般社団法人熊本青年会議所創立65周年にあたり、心からお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行により、マレーシアの国境は現在も閉鎖されたままです。そのため今年は残念ながら熊本を訪問することができませんでしたが、新型コロナウイルス感染症が収束しましたら、熊本の地で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

JCIのメンバーとして、65年間、地域社会への献身的な奉仕とより良い変化に対するこれまでの熊本青年会議所の取り組みは、敬服の至りです。私たちにとって2020年は非常に困難な年となりました。しかしこの大きな節目は、世界でも有数のボランティア社会奉仕団体の一員として、志を同じとする仲間との絆に改めて感謝するとともに、これまでの歴史と功績を振り返る機会になったと思います。

寛大さと思いやりを持ってこの人道的危機に対応されている皆様の姿勢に、心を打たれる思いです。JCIのメンバーとしての価値は、利他と奉仕の精神を通して地域社会に貢献することにあります。誰にでもそれぞれ特別な輝き(内なる光)があり、世の中のどの輝きとも比べることはできません。JCIのメンバーが愛と奉仕の精神に富み、そして集う時、それぞれの内なる光はよりいっそう光輝します。この先何年、愛と献身と理解の光が皆様の心に明るく輝き、調和の光がそれぞれのご家庭で輝き、そして奉仕の光が皆様の手から絶え間なく輝くことを切にお祈り申し上げます。

JCIは素晴らしい組織であり、国際社会に大きく貢献しています。健全な地球を後世の人々に残すことは、地球市民である私たちの責任です。未来を考えるだけでなく、実際に行動に移し、責任を持って役割を果たしていきましょう。そして地域をリードしていく組織であるために、今後もJCIの活動を継続していきましょう。

結びに創立記念式典のご盛会を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

【祝 辞】

親愛の一般社団法人熊本青年会議所會員們、大家好。

我是仁德青商2020年的會長-林奎佑，首先由衷的祝賀一般社団法人熊本青年會議所創立65週年。

這樣值得一同慶祝如此有意義の場合，因全球深陷新冠肺炎疫情所苦，以致無法出席一同參與，深感遺憾。

貴會與本會自2000年締結為姊妹會，特感殊榮。本是期待兩邊能透過參訪、慶典等各種聚會，使會與會間能更加深堅厚的友誼、與文化交流後的心境激勵分享，以提升宏觀視野，延續永續發展的情誼和成長學習，盼此場疫情能夠盡快結束，恢復昔日光采，亦請眾會友們保重，來日能於恢復後，再搭起共同慶賀交流的畫面。

期盼熊本青年會議所迎接65週年後，會員們間能夠更為凝聚、團結邁向互助的精神。

最後，在此代表仁德青商全體JCI會員們，誠心祝賀熊本青年會議所迎接65週年慶典盡興慶祝。熊本青年會議所與仁德青商友誼源遠流長。



[姉妹JC]

仁德國際青年商會
第四十一屆會長

林 奎 佑

親愛なる一般社団法人熊本青年会議所の皆様こんにちは。私、仁德國際青年商會2020年会長の林奎佑より、まずは一般社団法人熊本青年會議所創立65周年を心よりお祝い致します。

この様な大変価値のあるお祝いの席ですが、全世界に広がる新型コロナの苦慮にてこの度一同出席出来ない事大変遺憾に思っております。

貴會議所及び私共の会も2000年に姉妹会として締結しております事、特別に光栄に思っております。また相互に来訪しつつ、各種にイベントや祝典等を通じ更に深く厚い友情を高め、文化交流等を通じお互いの心も通わせ、広い視野を持ち延々と長く続く友情と学習を期待しております。この新型コロナの脅威が早く終結する事を祈り、復興し日が差すその日まで友人方の安全を願っております。また来訪が適いました後、再びお互い共同でお祝いの祝賀交流を行いたく存じております。熊本青年會議所が65周年を迎えた後、会員同士の団結やお互いが助け合う精神が更に強くなる事を期待しております。

最後に成りますが、この度JCI仁德國際青年商會全会員を代表し、熊本青年會議所の65周年心よりお祝い申し上げます。熊本青年會議所と仁德國際青年商會の友情が長く続く事を望みます。



公益社団法人 日本青年会議所
九州地区協議会
2020年度会長

江口 尚 登

【祝 辞】

一般社団法人熊本青年会議所創立65周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。創立より65年に亘り地域の発展に貢献されてこられましたその道程は大変尊いものであり、同じ青年会議所のメンバーとして誇りを感じますとともに、歩みを進めてこられました先輩諸兄並びに関係各位、そして地域の皆様に改めて感謝申し上げます。

創立65周年という節目の年、渡邊俊一郎理事長のもと、『克己復礼』～礼節を持ち行動しようをスローガンに、JAYCEEらしく何事にも挑戦する気概と覚悟をもち、実践的で実効性のあるまちづくりに向けた力強い運動を展開されていることと確信しております。現役メンバーの皆様の献身的な活動はもとより、貴青年会議所の根幹を築いてこられた諸先輩方の長きに亘る地域発展を目指した活動が記念すべき創立65周年に結びついていることは、公益社団法人日本青年会議所九州地区協議会におきましてもこの上ない喜びであります。

渡邊俊一郎理事長の力強いリーダーシップのもと、メンバーの皆様が改めてJCI運動を検証し、地域へ果たすべき役割を明確にし、未来へ挑戦し続ける青年経済人として堂々と運動を推進され地域の更なる飛躍へと繋がることをご期待申し上げます。

2020年度の公益社団法人日本青年会議所九州地区協議会は軌跡を紡ぎ、奇跡を起こそう持続可能な新たな九州を創ろうを理念に、新型コロナウイルス感染拡大により変わっていった社会で新たな生活様式を問われている現在、時代に即した組織改革の実施と、地域経済の活性化に向けたビジョンを示し、地域が輝く社会の創造に取り組んでおります。これからの令和時代に向け、貴青年会議所と九州地区協議会が結束し、世界に誇る地域と地区の創造に繋がる創立65周年の年となりますことを心からご祈念申し上げます。

結びとなりますが一般社団法人熊本青年会議所の皆様の益々のご発展と関係各位のご多幸を願い、創立65周年に際しましてのご祝辞とさせていただきます。



公益社団法人 日本青年会議所
熊本ブロック協議会
2020年度会長

安田 量 寛

【祝 辞】

一般社団法人熊本青年会議所が渡邊俊一郎理事長のもと、創立65周年を迎えられましたことに熊本ブロック協議会を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げますとともに、これまでの礎を築いてこられました先輩諸兄姉をはじめ、日頃よりお支えいただいております関係各位のご理解とご協力に対し深く敬意を表します。

1955年4月26日、全国66番目のLOMとして認証されて以来、先輩方から脈々と受け継いでこられた精神をもって率先してJC運動を展開され、地域発展に寄与してこられました。近年では2016年の熊本地震の際に迅速かつ的確な支援活動により、被災地の復旧・復興に多大な貢献をされただけでなく、翌年の2017年には第30回国際アカデミーを開催し、災害を乗り越えながらもJCIメンバーに学びの機会を創出されました。本年もCOVID-19や令和2年7月豪雨発災と通常の事業開催が極めて困難な中、的確な「判断力」と状況に応じた「適応力」により素晴らしい事業や取り組みを展開され、県内他LOMに刺激と希望を与えていただきました。

本年、渡邊理事長が掲げられる「克己復礼～礼節を持ち行動しよう～」をスローガンに、「魅力ある未来へ信頼されるJAYCEEによる活気と良心あふれる熊本の創造」という基本理念のもと、己を律し、他者を思いやり熊本の未来のために活動しておられます。そしてそれを率先して体現しておられるのは渡邊理事長です。常にメンバーに感謝し気遣い、地域の未来を語るリーダーであるからこそ、結束した組織運営がなされているのだと確信しております。偉大な先輩方が残してこられた軌跡をただ辿るだけでなく、時代に即して新たな道を切り開き、組織を昇華し続け熊本県内各LOMの模範となり、これからも「明るい豊かな社会の実現」へ向け邁進していただきますことを切に願っております。

これからも一般社団法人熊本青年会議所の皆様が、65年に渡る歴史と資産を最大限に活かし、新時代の熊本を築くリーダーとして活躍されますことを祈念し挨拶とさせていただきます。



[友好JC]

一般社団法人 延岡青年会議所
2020年度理事長

梶原 靖 正

【祝 辞】

一般社団法人熊本青年会議所が創立65周年を迎えられましたこと、一般社団法人延岡青年会議所を代表し、心よりお祝い申し上げます。創立以来65周年にわたり連綿と歴史と伝統を紡ぎ、情熱と勇気、そして実行力を持って、地域の発展のためにご尽力されてきた先輩諸兄をはじめとして、現在もお青年会議所運動を推進されているメンバーの皆様には深く敬意を表します。

この節目の年に渡邊俊一郎理事長の掲げる「克己復礼～礼節を持ち行動しよう～」のスローガンのもと、熊本のまちづくりの主役として、新たな歴史を刻みながら活気と良心あふれる熊本の創造に向けた確かな一歩を踏み出され、積極果敢に魅力ある未来へ行動されている一般社団法人熊本青年会議所がさらに大きく羽ばたかれんことを祈念する次第でございます。

2020年度、新型コロナウイルス感染症が世界中で発生し、それは日本においても例外なく大きな影響を及ぼしています。私どもの住み暮らす地域においても新型コロナウイルス感染症による影響ははかり知れず、今まで当たり前だったことが当たり前ではなくなり、私たちの青年会議所運動も新たな「カタチ」が求められています。今こそ、私たち青年会議所が、青年らしい発想力と行動力で新たな時代を切り開く原動力となるときではないでしょうか。私ども一般社団法人延岡青年会議所は、「情熱でひとは動き、挑戦でひとは成長する」のスローガンを掲げ、志を同じうする仲間と共に、地域に必要とされる人財への成長、そして目的を明確にし本質を理解し、失敗を恐れず挑戦する組織になるべく、日々青年会議所活動に取り組んでおります。

創立65周年を契機として、これまで歩んでこられた歩みを振り返り、創立時にご尽力されました先輩諸兄の情熱を思い起こすとともに、新たな熊本、そして九州を創造し担っていく団体として挑戦し続けてください。結びになりますが、一般社団法人熊本青年会議所のますますのご発展とご活躍、メンバーの皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

理事長総覧 伝統と誇りの軌跡

1955~2020



1955 (昭和30年)

初代理事長

園田 寛(故人)

[25周年記念誌より抜粋]

1954年上京し日本商工会議所を訪ねた園田寛氏は同会館の廊下を散策中「日本青年会議所」の看板をふと見つけた。ちょっと興味を覚えて色々訪ねた処パンフレットや規約を渡され熊本でも結成したらどうかと薦められた。彼は帰熊後、結成されて間もない専門店会、専門大会、名店会等商工会議所の中の団体の青年層と相談、専務理事大眉源吾氏の応援もあり福岡JC高松、田中丸氏等先輩JCの指導もあって1955年熊本市公会堂で熊本JCの設立総会を開くに到った。登録ナンバー 66、九州では12番目のJCである。かくして園田氏と日本JCとの偶然の出会いによって熊本JCが誕生したのである。

同志43名でスタートした熊本青年会議所は1955年4月正式に承認を受けたのである。発足当初から5商工会議所のジュニア版なのではないかと発起人も当初はわからず、そこで大いに研究したが外部の人も同じような眼で見ていたに違いない。奉仕、修練、友情を三原則とするJCは、自ら金を出し合う他の団体と異なり、頭と体で無限にある金を引き出すこと。又そのささい水となるべきである。当時会場は大洋食堂に定め月二回の例会を行い事ある毎に懇親を深める為の会をもち會員の団結を強めていった。



【創立総会】

熊本市公会堂(現市民会館)の屋上にて創立当時のメンバー(1955年1月17日)。この後、4月26日に登録ナンバー 66、九州で12番目の「熊本青年会議所」が誕生した。

【自動車教習所開設】

終戦の傷跡も癒え、自動車もかなり出回り始めた頃だったが、当時自動車の運転が出来る會員は極めて少なかった。しかし、近い将来必ず自動車社会が到来すると予測し、進駐軍から石灰ガラをもらい、杉塘の日産自動車(当時)裏の空地の自動車練習所を設け、「熊本青年会議所自動車練習所」とした。これは、會員に非常に喜ばれ、結束を一層強固なものにした。

【熊本JC結成記念植樹】(御幸坂)

昭和28年の白川大水害の時に御幸坂の桜が枯れてしまった為、例会にて熊本JC発足の記念植樹をすることとなる。3月28日に、熊本少年鑑別所前広場で、林田会長(当時)をはじめ、市経済部長、県関係者を招き、桜の苗木を100本植樹する。



1956 (昭和31年)

第2代理事長

上野景規(故人)

- 創立1周年記念祝賀式典(肥後銀行ホール)
- 交通安全塔の建設
- The Family of man写真展(大洋デパートホール)
- 九州地区JC野球大会南九州予選で優勝(白川公園球場)
- 国際親善児童画作品展(熊日ホール)
- JC野球部誕生
- 緑化運動、旧城東校前に記念植樹
- 中労委員長中山伊知郎氏との懇親会
- JC奨学生制度開設



1957 (昭和32年)

第3代理事長

勢 総一郎(故人)

- 熊本水害での救助活動
- JCとお茶の会(泰勝寺)
- 施設の子供たちを百花園に招待
- JCI第12回世界会議東京大会
- 熊本市内の小・中学生を対象にJC賞の表彰
- 勢理事長一日北署長に就任
- 阿蘇高千穂峡探訪ドライブ及び写真コンテスト



1958 (昭和33年)

第4代理事長

清田祐生(故人)

- 四半世紀の世界「ライフ写真家傑作展」(大洋デパートホール)
- 日本室内交響楽団演奏会(市民体育館)
- 天皇皇后両陛下ご来熊(4/13~16)
- 先進地視察(静岡商店街)
- 内部充実



1959 (昭和34年)

第5代理事長 海津精一 (故人)

- 第6回地区会員大会～熊本JCがはじめて地区大会を主管する～
- 雨の中をエクスカッション
- 人吉JC誕生
- 先進地視察(富山市商店街)
- 八代JC誕生
- JCゴールドメダル賞授与



1960 (昭和35年)

第6代理事長 高津城 徹 (故人)

- 社会の谷間写真展(大洋デパートホール)
- 第15回国民体育大会が熊本で介される。
JCチリ箱を熊本市に寄贈
- 国体PRのため自動車パレードに参加
- JCIアジア地区大会に参加(大阪)
- 進駐軍さよならパーティ



1961 (昭和36年)

第7代理事長 宮崎誠一 (故人)

- 青年会議所とお茶の集い開催(泰勝寺)
- 花見パーティ (池田邸)
- 先進地視察 岐阜JCメンバーと(岐阜)
- 沖縄に肥後椿寄贈
- 島原JCとの交歓会(大洋デパート特別食堂)
- 熊本駅に和傘50本及び傘立て寄贈
- 市教育委員会に鉛筆削り器寄贈
- アジア友の会に金10,000円寄贈
- 肢体不自由児キャンプ資金継続援助
- 九州地区災害援助で諒早へ



1962 (昭和37年)

第8代理事長 奥村勇夫 (故人)

- 自衛隊一日入隊 熊本第八師団
- 火の国まつりの仮装行列で田原坂美少年隊として参加
- 会報創刊号発行
- 文藝春秋社文化講演会開催
- 貧困家庭の新入学児童にランドセル120個贈呈
- 沖縄緑化募金として金10,000円熊日に寄託
- 労働省職業訓練局の講師を迎え経営講習会を開催(熊本いすゞホール)
- 熊本駅に和傘50本寄贈
- 九州地区会員大会に参加(佐世保)
- 福江市大火に災害援助



1963 (昭和38年)

第9代理事長 田尻邦雄

- 本渡JC認証伝達式
- 第一回厄入り厄晴れの会開催(阿蘇観光ホテル)
- 奨学金実施
- 緑化運動協賛植樹
- 一日自衛隊入隊
- 県下JC野球大会



1964 (昭和39年)

第10代理事長 桜井貴敏 (故人)

- 座禅の会
- 伊豆熊日社長をお招きして道徳講習会
- 内部充実
- 緑地運動協賛植樹
- 熊本JCに望む小学生を囲む懇談会
- 商法改正講習会
- 県下JC秋季野球大会
- 火災見舞(本渡市)
- 施設招待映画会
- 善意銀行預託13,300円
- 集団就職実態調査団派遣、中京地区
- 久留米JCとの懇談会



1965 (昭和40年)

第11代理事長 濱田定勝 (故人)

- 勤労青少年に対するとりくみ
 - 座談会の開催
 - 勤労青少年対策特別講演会の開催
 - 勤労青少年の価値意識調査
 - 勤労青少年協会をつくることを提言
 - 勤労青少年音楽の夕べ
- 経営講演会3会開催(一般公開)
- 菊池開拓農村を慰問
- 緑化運動協賛植樹



1966 (昭和41年)

第12代理事長 日高英俊 (故人)

- 盲学校アイススケート場招待
- 勤労青少年協会がJCの後押しで設立
- 無医村の調査
- JCI京都大会への参加
- サム・テラーを呼び興行



1967 (昭和42年)

第13代理事長 吉本栄一

- 明るい豊かな社会を目指し、経済開発、社会開発、人間開発の3点に立って、JC運動を進める
- 2年目に入った勤労青少年協会には、大阪から見学団が来熊



1968 (昭和43年)

第14代理事長 佐々木 勝 (故人)

- 九州地区大会 主管
10年ぶりに熊本で開催され、九州のJC運動の一大躍進の責任を果たした。この時の九州地区協議会の会長が第10代理事長の故桜井氏。熊本からは初の会長であった。
- 会員拡大と指導力の開発
会員数100名を目標とし、97名の拡大を達成。
- JC杯争奪子ども会対抗ボートボール大会



1969 (昭和44年)

第15代理事長 大江捷也

- 交通安全ひまわり運動
- 中学生親善野球大会
- 勤労青少年ホーム
かねてより念願であった勤労青少年ホームの設置の約束を市長からとりつけ、勤労青少年の意向を行政につなぐための会議を重ね、現在の勤労青少年ホームを翌年開館させる大きな役割を果たした。
- 日本の防衛を考え、市民的コンセンサスを得るための会



1970 (昭和45年)

第16代理事長 倉重 剛

- 白川公園ナイター設備の設置
青少年問題への取り組みとして、白川公園に第1号ナイター設備を設置、後に日本青年会議所全国会員大会青少年部門にて最優秀賞を受賞した。
- 勤労青少年ホームの建設
- 熊本市民意識調査の実施



1971 (昭和46年)

第17代理事長

佐々木 克二

■交通問題に取り組む

前年度に実施した明るい豊かな社会づくりのための市民アンケートの調査結果を受けて、この年の重点課題として交通問題に取り組んだ。

5月に「交通遺児に愛の手を」をテーマにした「JCと市民の夕べ」を開催。

9月のJCデーに、福祉会館5階ホールを会場として「快適な市民生活を送るために～交通問題をみんなで考えよう」と交通問題市民討論会を開催。



1972 (昭和47年)

第18代理事長

古荘政博(故人)

■第19回九州地区会員大会(熊本市民会館)

「人と自然と楽しさ」をテーマに行われた。本土復帰後はじめての公式行事に那覇JCが参加し大会を盛り上げた。

■藤崎八幡宮例大祭への参加

祭りのメインイベントである飾り馬の奉納が年々減少したことを受けてJCが参加を決定。各種催しを企画して参加、資金確保などに努める一方、各団体に参加を呼び掛け、活気を取り戻した。

■この年度より、プロジェクトチームによって社団法人となる。



1973 (昭和48年)

第19代理事長

中村忠彦

■「美しい熊本づくり運動」の提唱

熊本県の「美しい熊本づくり運動」と緑のキャンペーンに連動。その後4月に「美しい熊本づくり、緑の県民会議」を、5月に「森の都推進会議」を発足した。

■県下一斉美化の日

7月22日、市内の高校生が中心になって毎年行っていた清掃の日を、県下一斉美化の日と決め県民運動として広げた。チリ箱53個を寄贈。



1974 (昭和49年)

第20代理事長

主海 偉佐雄

■第5回JC旗争奪ナイターソフトボール大会

■LIAセミナー

■交通問題シンポジウム

交通災害に目を向け、「ゆっくり運転しよう」のステッカー貼りや、7月には「幼児子供の交通安全」をテーマとした交通問題シンポジウムを開催。



1975 (昭和50年)

第21代理事長

村山 陸奥雄(故人)

■20周年記念式典(ニュースカイホテル)

熊本JC20周年の歩みをスライド上映。また第16代～20代理事長へ感謝状と記念品の贈呈が行われた。

基調講演は「乱況に生き抜く」(株)山善社長 山本猛天 氏

■20周年事業「おかしなおかしな音楽祭」

■20周年記念特別事業

人と自然と豊かさ「新しいふるさとづくり運動」シンポジウム

■「これからのJCに望む」をテーマに歴代理事長座談会を実施



1976 (昭和51年)

第22代理事長

上田隆利

■愛の献血運動

■ハワイのホノルルJCと交流

■アジアコンファレンス参加

■目標は200名会員!!

■藤崎宮秋の例大祭への参加

■環境問題委員会を設け、公害等の問題に取り組んだ



1977 (昭和52年)

第23代理事長

大西靖一(故人)

スローガン

デスクワークからアクションへ
「地域社会に密着した、行動する熊本JC」

■地域の時代

■宇城JCの設立

■初めて室制度を導入し、4室・12委員会とする

■熊本JC新鮮血協力会の発足

■母と子の幼児安全クラブづくり

■飲酒運転追放団体の宣言

■サマーキャンプ

■熊本JC会員200名を目標にかかげ、見事に達成

■牛深JCの設立

■スリーピングメンバーの断固たるカット

■会員台帳づくり



1978 (昭和53年)

第24代理事長

石丸捷一(故人)

■CD5サイクル

1976年の上田理事長の時に会員数200名を目標にし、1977年の大西理事長の時に達成。そのことにより、在籍年数の短い会員が多く、対外的な事業は極力避け、JC運動の原点である社会開発計画を推進するために「CD5サイクル」の5つの要素(調査→分析→企画→実行→評価)ののっとり市民意識調査を実施。

■勤労青少年船上フェスティバル

■サマーキャンプ



1979 (昭和54年)

第25代理事長

村上博美

■日本初JC「最優秀会員開発賞」受賞

■実施JC道場一年コース

■50万市民アンケートも実施

■交通シンポジウム

■初の対外JC新聞発行

■長島監督の例会

■家族会

■お祭りアンケート



1980 (昭和55年)

第26代理事長

古家正昭(故人)

■25周年記念事業 熊本青年国際協会設立

■25周年記念式典

■25周年記念講演

■25周年記念事業

クリーンくまもと「熊本JC空き缶保険」

■九州財務局残置運動

■壺川地域水害救済活動



1981 (昭和56年)

第27代理事長

與縄義昭

■セーフティベルト着用運動

■ボランティアの広場(上通り)

■JC少年スクール餅つき大会(水前寺公園参道)

■出向奨励

■藤崎宮大祭参加

■新年パーティ(ホテルキャッスル)



1982 (昭和57年)

第28代理事長

出田敬雄

スローガン

将来を見つめて語ろう
考えよう 次なる10年

■放置二輪車に対し駐輪場設置への提言

■政策室設置

「将来を見つめて語ろう考えよう次なる10年」というスローガンのもとにスタートし、新たに政策室を設置し、市民とともに語り、考え、行動した。

■ボランティアの広場

■様々なLD教室開催



1983 (昭和58年)

第29代理事長

加藤光明

- 市民意識調整
- 九州の中核LOMへ
- 熊本青年国際交流育成基金
- ボランティアの広場(上通り)
- カナダ、スタンビード・ショー・バンド
- 熊本ホームステイ受入



1984 (昭和59年)

第30代理事長

赤星邦紘

スローガン
創ろう住みよい豊かな郷土
示そう今もそ青年の気概

- 行革フォーラム
- 会員の自発性・主体性・自主性を大切に運動を展開
- 市民意識調整
- MIA講座
- 子供の学校どなたこ運動
- 青少年英会話スクール



1985 (昭和60年)

第31代理事長

徳住 章

スローガン
共に語ろう2001年 我と我が地域(まち)
クオリティアップ KUMAMOTO

- 創立30周年記念式典(ニュースカイホテル)
「21世紀への新たな出発」をテーマとして、9月28日にニュースカイホテルにて開催された。成人を迎える時が21世紀という、九州音楽幼稚園の園児による「よるこびの歌」の演奏で式典は始まった。
- 30周年記念誌
- 第6回日本文化デザイン会議
- 褒賞受賞
- 100%例会(30年間で初めて)
- 第18回熊本ブロック会員大会主管
- 辛子レンコン中毒事故被害者救済 まごころ募金



1986 (昭和61年)

第32代理事長

出田信行

スローガン
青年の志 熊本づくりは人づくり
ロマンの追求 ビジョンの構築

- 全国6万人100%例会
- 行政改革シンポジウム
- 4月例会
- 第7回熊本ボランティアの広場
- JC家族の日(ぬりえパズル日本一づくり)
- JD道場
- ニューLIA
- MIA
- 肥後っ子史跡パトロール
- 第1回ナイトホースショー
- 熊大留学生交流御茶会
- 褒章受賞



1987 (昭和62年)

第33代理事長

北村直登

スローガン
蘇れフロンティア
満ちて歴刻(ノア)の時

- 第2回ナイトホースショー
- 菊池JC設立準備
- 日本JC経営開発推進室賞 最優秀賞受賞
- NTT・JCジョギング大会
- 出向者フォーラム
- 経営スクール
- 第1回熊本青年経営塾
- 熊本文化デザイン会議
- 第1回大運動会
- 肥後っ子史跡パトロール



1988 (昭和63年)

第34代理事長

小島徹志

スローガン
青年と夢 行動から変化

- 全国路面電車シンポジウム
- 菊池JC認証伝達式
- ホームステイカントリー熊本
- 経営スクール
- 第2回熊本青年経営塾
- ボランティアの広場協力
- 歴史研究セミナー
- 肥後っ子史跡パトロール



1989 (平成元年)

第35代理事長

稲葉 伸一郎

スローガン
先駆けて未来！ 知ろう新社会の胎動
～未来に我々が見えてくる～

- The Future's Key 21 ありがとう!! 1%のおもいやり
 - 「人と自然の豊かな共生を目指して」基調講演 講師：羽仁進 氏
 - タイムマシン地球号
- 熊本市制100周年事業参加
- MIAセミナー
- LD道場(Leadership Development P.I.P Program)
- ニュー CD運動(母と子の節水教育)
- 肥後っ子視察団
- 交通シンポジウム「空都くまもとを考える」



1990 (平成2年)

第36代理事長

永田 求

スローガン
よびおこせ 涼風の志
優しく そして強く

- 歴史研究委員会セミナー「タッチ・ザ・歴史」(熊本城伝説工芸館・熊本城)
- 35周年記念事業「肥後っ子海洋調査団」
- 35周年記念事業「熊本城の一日」(火の国まつり協賛事業)
- NTT・JC 第4回熊本城 友・遊ジョギング大会
- 九州地区しあわせ列島対話集会(熊本青年会館)
- 涼風の会
- 35周年記念事業「三井シンボリア・トゥモロウ熊本」
- 第9回全国城下町シンポジウム イン鶴岡
- ミニバレーボール大会
- 都市問題セミナー 熊本の地下空間利用についての意見交換会
- '90熊本青年経済人会議



1991 (平成3年)

第37代理事長

深浦 修

スローガン
語ろう くまもとの21世紀
示そう情熱と行動力

- 第10回全国城下町シンポジウム熊本大会
- 合併記念聖火リレー
- 九州青年経済人会議'91
- KULP報告書(1年次)
- 褒章受賞
- 熊本市4町合併記念市民シンポジウムの開催(県立劇場)
- 合併後の熊本を考えるディスカッション
- 全国会員大会主管に立候補
- 熊本JC築城太鼓



1992 (平成4年)

第38代理事長

西釜茂文

スローガン
よみがえれ熱き心。
感動の時を求めて

- タンジョン・ブンガJCとの姉妹JC調印式
- 第1回JCカップスーパーキッズサッカー
- KULP報告書(2年次)
- 全国大会招致
- 米日財団国際シンポジウム
- 酒の肴コンテスト



1993 (平成5年)

第39代理事長

上村修生

スローガン
Here and Now 語ろう熊本の夢
新しい時代のJCを求めて

- 熊本城文化フェスティバル
- まちづくりフォーラム(熊本市総合女性センター)
- ニューLIAセミナー(まちづくりセミナー)
- 新幹線誘致運動
- 地域政策フォーラムの開催
- 水環境会議の主催
- 熊本-米国リーダーシッププログラム(3年次)の実施
- 全国会員大会招致運動の推進
- LOM中長期計画
- KULP報告書(3年次)



1994 (平成6年)

第40代理事長

大住裕司

スローガン
創ろう、感動の未来を!!

- あすの熊本を語る広場(熊本市市民会館)
市長選挙を控え、6名の立候補予定者全員が出席。1000名を超える市民参加のもと開催。市長になるうとする人の所信を伝え、マスコミの報道姿勢を変え、結果として、投票率が前回より10%以上上昇。
- 全国会員大会主管LOM決定
- 熊本JC国際交流パーティ(6月)
- LDセミナー「地球にやさしいひとづくり」



1995 (平成7年)

第41代理事長

村本 亮

スローガン

今こそ CHANGE くまもとを知ろう
考えよう よりよい地域(まち)に!!

■ワールドゲーム in KUMAMOTO

■40周年記念事業

- 40周年記念感謝のタペ
- 40周年記念感謝DAY
- 40周年記念事業 おもやいYOICHI
- 環境劇

■おもやいチャリティコンサート

～心に響く二人のオーケストラ・YANOMAN～

■熊本JCと記念番組の制作

■フィランソロビー推進月間

■チビッコ宝島探検隊

■白川で鮎を食べる会(白川河川敷)



1996 (平成8年)

第42代理事長

八木 衛

スローガン

元気・熱気・本気をもって

■フェアウェル例会

■50名拡大

■白川を知るう学ぼう 白川で遊んで白川を考えよう

■全国会員大会の準備

■温泉宅配

■TVリサイクル

■フィランソロビー情報誌発行

■福井JCと姉妹提携



1997 (平成9年)

第43代理事長

野々口 弘基

スローガン

主体的決断で真摯な行動を

■第46回全国会員大会熊本大会

「元気のマグマは環がっ」とをスローガンに、パークドームにて記念式典、水前寺成趣園にて大懇親会を開催。当時、地方大会で過去最高の登録数を記録した。

■「くまもとの昔話」CD-ROM作成

■世界男子ハンドボール選手権大会 支援

■ASPAC バタヤ大会(タイ)

■7月例会カーリング大会(スコア)

■11月家族例会

■地域情報会議

■Up With People ふれあい日本ツアー in 熊本

■大阪「なみはや大会」ブース出展

■第5回熊本県水環境会議 主催



1998 (平成10年)

第44代理事長

森 泰司

スローガン

自分がやらねば誰がやる!
～行動元年1998～

■お城まつり

■グランドデザイン

■「ハートフルくまもと大会」500日前イベント

■「ハートフルくまもと大会」PR小冊子作成

■かながわ「ゆめ」大会ブース出展(及び大会視察)

■第1回水環境復元全国大会開催

■熊本県水環境会議

■熊本JCサッカー日本一

■新年会

■地球市民の日 早朝清掃

■新年祈願



1999 (平成11年)

第45代理事長

神崎 耕蔵

スローガン

「あったかハートの地域市民」
息づくマグマより走り出せ!!

■第33回身体障害者スポーツ大会

「ハートフルくまもと大会」後夜祭主管

■国体PR事業「親子ウォークラリー大会」開催

■肥後っ子活生市

(サンロード新市街、幸島公園、産業文化会館、スペース5)

■Up With People 受け入れ

■地球市民の日



2000 (平成12年)

第46代理事長

下川 寛

スローガン

「感謝でつながり時代とところ」
～我らはまちの「せんどう」者～

■45周年記念 ニューミレニアムパーティ

■高瀬しほり水綿プログラム & Up With People 2000

■仁徳国際青年商會(仁徳JC)との姉妹締結調印式

■第33回熊本ブロック会員大会 熊本大会主管

■ディベートやるうよ!

■ビジネス活生市

■経営学セミナー

■21世紀カウントダウンセレモニー

■くまもとお城まつり

■ボランティア週間「ハートフルステージ2000」

■姉妹JC(タンジョンブンガJC)ベルベット女史来熊



2001 (平成13年)

第47代理事長

有川 康由貴

スローガン

「正義」-新世紀維新-

■くまもとお城まつり夏「お城学校」

■くまもとお城まつり秋「高瀬しほりチャリティバザー」

■環境セミナー

■「地球市民の日」チャリティコンサート

■空き缶リサイクル大作戦

■ボランティア週間「ボランティアの広場」

■ひのくにファンD

■JCプレスの発行

■100人拡大

■100人例会

■改革への序章

■プレイスループログラム

■メンバー企業紹介ホームページ



2002 (平成14年)

第48代理事長

寺本 光明

スローガン

“魂”(SOUL)
今、“真の燈”を見つけるために!

■第46回全国会員大会 熊本大会 開催5周年記念式典パーティ

■The town of DREAMS

■熊本JCタウンページの発行

■第21回全国城下町シンポジウム島原大会

■くまもとお城まつり

■地球市民の日

■タンジョンブンガJC姉妹締結10周年再調印式

■10月公開例会「政令指定都市について考える」



2003 (平成15年)

第49代理事長

木庭 健

スローガン

VITALITY
～夢のかたちに活力を源に～

■くまもとフィルムコミッション

■水環境会議

■地域活性化「決定! おにぎりチャンピオン」

■自然と遊ぼう in 川辺川

■政令指定都市くまもとを考える

■ゴミ分別リサイクル体験

■本物の教育講演会



2004 (平成16年)

第50代理事長

藤院 了誠

スローガン

利他 RITA -SYMPATHY-

■小学生の農山村泊体験

■マニフェスト勉強会

■台湾仁徳JC姉妹友好訪問

■江津湖大釣り大会

■フィルムコミュニケーションフォーラム

■50周年決起例会

■第11回水環境会議

■よくわかるマネジメントセミナー

■世界会議2004 in 福岡 副主管

■世界会議福岡開催記念 九州タスキリレー



2005 (平成17年)

第51代理事長

副島 健史

スローガン

感動
～一人一人が心で感じ自ら行動する～

■50周年記念4月誕生例会

■ファミリー例会「夜回り先生」水谷修氏講演会

■肥後路100キロ徒歩の旅

■50周年記念事業 シネマフェスティバル

■50周年記念式典・記念パーティ

■50周年記念事業(講演、未来創造フォーラム)

■聞いて得する元気経済例会～競争こそ生き残りの条件



2006 (平成18年)

第52代理事長

吉田 佳樹

スローガン

いろいろある
ひとつになる

■マインド・マッピング例会

■ローカルマニフェスト例会

■ファミリー例会

■チャレンジ100km 石橋めぐり 徒歩の旅

■災害対策例会

■熊本未来造り ローカルマニフェスト型公開討論会

■スペシャルオリンピック支援事業



2007 (平成19年)

第53代理事長
北村 太郎

スローガン

step by step
着実に一歩ずつ

- 合同例会 はい！元気です。(社)熊本青年会議所です。
- 公開例会 キミが笑顔になれるまで
- LOM内研修 熊本の未来の為に
- 公開例会 裁判員制度による模擬裁判
- 人間力開発例会 生涯修行～己を磨く～
- 公開例会 本当に儲かった話は表に出ない！
- 公開例会 幸山熊本市長マニフェスト検証会
- 熊本城築城400年記念事業 HIBINO CUP



2008 (平成20年)

第54代理事長
橋本 龍生

スローガン

挑戦からの気づき
～一人ひとりの意識革命～

- 新春日本の美徳復活例会「復活！真の日本人の心」～金美齢氏講演会～
- ご当地検定例会「郷土の文化・歴史に関する知識を深めよう」
- 教育問題例会～笑顔で過ごせる地域を作ろう～
- 政令指定都市推進事業
「なあ～するほど！これが政令指定都市なのだ！」
- 個性発見例会「動物占いがやってきたin熊本市動物園」
～子育てから、職場、まちづくりまで～
- 環境教育事業 発見！体験！日本一の地下水都市体験ツアー
- 第17回 熊本県水環境会議～日本一の水を未来へ～
- 幸山熊本市長ローカルマニフェスト中間検証会
「幸山市政をひもといてみよう！」



2009 (平成21年)

第55代理事長
古橋 徹

スローガン

向上心をもって生きる
～昨日よりも向上するために今日何をすべきか～

- 印象アップ例会「来なきゃ損する！印象コミュニケーション向上例会」
- ロアッソ熊本 KICK OFF フェスティバル2009
～郷土の方々に愛を込めて～
- 合併すべきか？ 益城と熊本の未来を語り合う会
- 第67期名人戦、熊本城開催プレイベント事業
「以心伝心ふれあい将棋大会」
- 「武士道」例会～人の上に立つ者の哲学～
- 熊本 United Children 支援事業
熊本 JC・KUC 合同清掃活動～私たちからできること～



2010 (平成22年)

第56代理事長
宮本 勝利

スローガン

和
寛容の心で自分自身がニュータイプとなれ

- 文化庁生活文化普及支援事業 親子の絆ふれあい将棋教室
- 創立55周年記念式典及びパーティ並びに
熊本JCシニアクラブ創立30周年記念式典
- THE九州横断自動車道フェスティバル～熊本⇄延岡 命のみち～
- ローカルマニフェスト推進例会
- 「55周年記念 みんなでひとつ。新たな仲間づくり」例会
- ニュータイプブランド例会～組織の変革のために～
- 創立55周年記念「くまもと女子ジュニアゴルフ大会」
～継続させようゴルフ王国熊本～



2011 (平成23年)

第57代理事長
村田 親則

スローガン

一所懸命
未来を築いて生きるものは今を失い、今を生きるものは未来を築く

- 例会～被災地及び被災者への援助方法などの話し合い～
- 物資支援(福島県郡山市、宮城県仙台市)
- 被災地支援例会～いま、わたしたちがやるべきこと～
- 被災地支援事業(グリーンピア三陸みやこ)
- 会員わくわく交流例会 がんばろう日本 がんばろうJC
- 第82期棋聖戦第三局対局棋士とのファンの集い
- 被災地支援事業(くまもとであそぼ)
- 組織力向上例会 VMV セミナー
- 被災地物資支援(お米を運ぼう)



2012 (平成24年)

第58代理事長
西 俊至

スローガン

Change the mind
原点を見失わずに、変わろう。

- 東日本大震災復興支援チャリティーコンサート
とどけ！支援のハーモニー
- 例会～人が育つ会社が育つ明日から使えるカンタン育成術～
- 例会～自然エネルギーが切り拓く日本の未来～
- 例会～楽しく遊んで学ぼう おもしろ科学実験～
- 九州北部豪雨災害の支援
- 第3回 九州中央自動車道フェスティバル～熊本⇄延岡～命のみち
- 例会～熊本の文化を学ぶ～



2013 (平成25年)

第59代理事長
鎌田 剛

スローガン

熊本を照らす
一つの火の魂となれ

- 一般社団法人へ移行
- 例会「プロ」から学ぶプロ意識
- 例会～偉業へお挑戦 その先の友情へ～
- 城下町くまもと時代絵巻
- 水環境事業「水環境スタンプラリー」
- 例会～歴史を知り、旅を知り、足を知る～
- 第9回 阿蘇→熊本徒歩の旅
- 第62回 全国大会 奈良大会～100人拡大達成により表彰
- 例会～集う大切さ～
- 幸山熊本市長ローカルマニフェスト公開検証会2013



2014 (平成26年)

第60代理事長
野瀬田 隆

スローガン

熊本JCismを確立し、
各々の価値観を向上せよ

- 例会～ご縁でつなぐ会員拡大～
- 例会～東日本大震災での「熊本JCism」～
- 例会～過去を知り未来へとつなげよう～
- 城下町くまもと時代絵巻2014
- 例会～友情を育む会員交流～
- 第33回 全国城下町シンポジウム熊本大会
- 第10回 阿蘇→熊本徒歩の旅
- 例会～幸山市長ローカルマニフェスト検証会2014～
- 熊本市長選挙ローカルマニフェスト型公開討論会
- 九州中央自動車道フォーラム
- 例会～第33次全国城下町シンポジウム熊本大会事業報告
～回想と継続～

2015

(平成27年)

伝統と誇りを纏い、
郷土を導く羅針盤となれ!

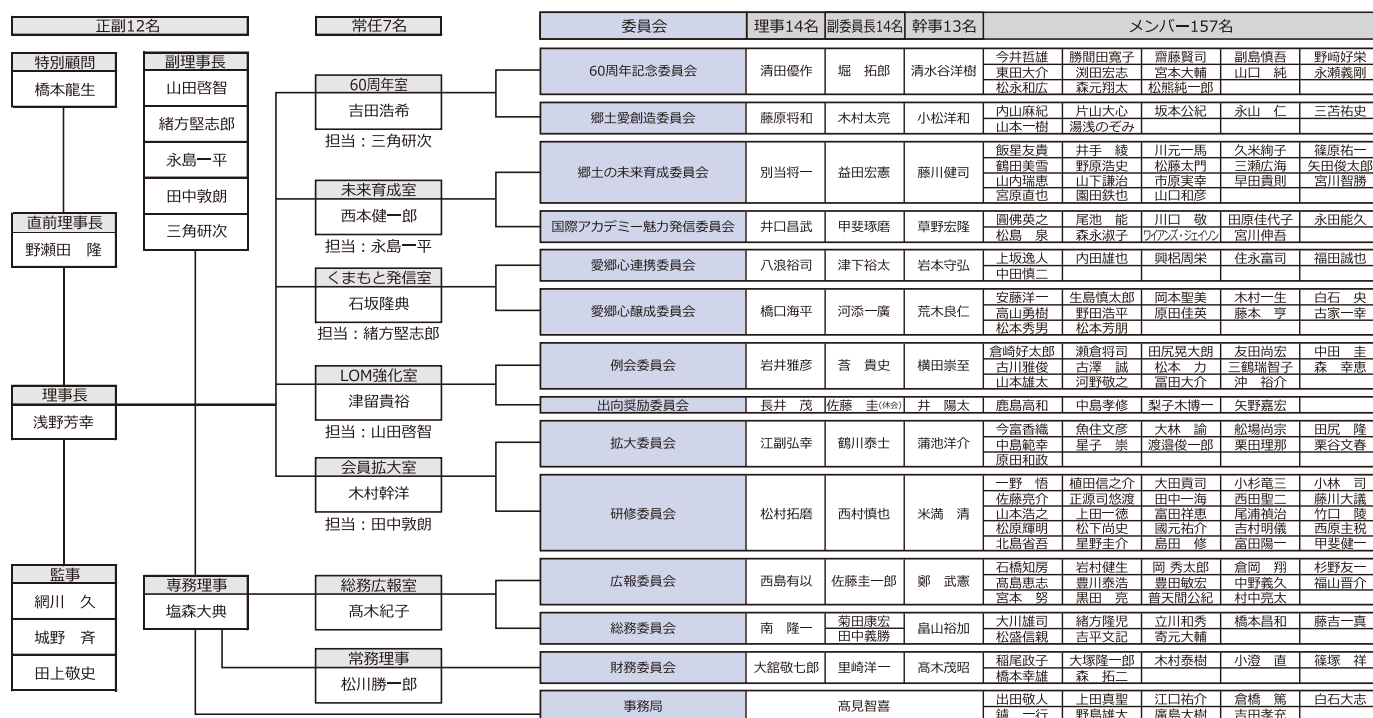


第61代理事長
浅野 芳幸

主な事業内容

- | | |
|--|--|
| <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■新年パーティ ■1月新年例会 ■1月定時総会 ■2015年度京都会議 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■2月例会～知っとく! っ得! Let's 国アカ!!～ <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■2015年度九州地区協議会会長訪問例会(水俣) ■3月例会～勤いLOMの確立のために～ ■「春のくまもとお城まつり」支援事業 ■「第9回火の国YOSAKOIまつり」蘇る熊本城 完全復活!」 <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■60周年記念式典・パーティ ■4月例会 リーダーシップ論～樋渡社中CEOが考えること ■創立60周年記念基調講演「郷土の明日が輝くために」 ■タンジュンブガJC、仁徳JCとの交流会 <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■第34回 全国城下町シンポジウム 津大会 プース出席 ■5月例会 ～大人が変われば子どもが育つ 今日から変える関係づくり～ ■「ミスベリング熊本白川会議」並びに「Eポートにのってみよう!」 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■第48回 熊本ブロック大会 in 牛深 ■6月例会～知ってきたいマニフェスト～ ■JCI ASPAC コタキナバル大会 ジャパンナイトブース出席 | <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■第28回 国際アカデミー IN 東京 ■2015年度 グローバル・パートナーシップサミット(GPS) ■7月例会 ～街中に眠る物語～ ■サマーコンファレンス2015 ■仁徳国際青年商會35周年記念式典へ参加 <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■8月例会 ～くまもとでつくる～ ■九州地区大会2015諫早大会 ■青少年育成事業 SHIROIKU～熊本城キッズガイドツアー～ ■江津湖花火大会2015 支援事業 <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■9月定時総会 ■9月次年度継承例会 ■第64回全国大会東北八戸大会 <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「秋のくまもとお城まつり」支援事業 ■九州中央自動車道フェスティバル ～北方延岡道路開通記念イベント 宮崎グッと近くなる!!～ ■第1回タグラグビー交流大会～ ■10月例会～未来へ輝く JAYCEE たれ～ <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■第70回JCI世界会議 金沢大会 ジャパンナイトブース出席 ■大西熊本市長ローカルマニフェスト公開検証会2015 ■多文化交流フェスティバル～世界を身近に感じるために～ ■11月例会～未来を指し示すために～ <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■12月卒業例会～感謝を示す36の羅針盤へ～ ■第49回 熊本県立盲学校生徒招待アイススケート |
|--|--|

2015年度組織図



主な事業風景



創立60周年記念基調講演
「郷土の明日が輝くために」



青少年育成事業
SHIROIKU～熊本城キッズガイドツアー～



多文化交流フェスティバル
～世界を身近に感じるために～

2015年度 年間活動報告書



創立65周年 特別記念対談

歴代理事長



第61代 理事長
浅野 芳幸 先輩
×

第66代 理事長
渡邊 俊一郎 君

スローガンにかけた想い

【浅野先輩】

2015年度は60周年記念の年でした。これまで59年間歴史を紡いできて頂いた先人たちがいらしゃってこそ私達は今活動できるとの思いが強く、その歴史を紡いだ方々はもちろんのこと、協力をしてきて頂いた方々へ感謝を表す年にしたいと考えました。

そして、この歴史を基軸としてこれまで以上に地域に貢献できる団体へと昇華していく節目として60周年という年はとても重要な1年になると考えました。良い伝統を残しつつ、これから5年10年後の熊本の明るい豊かな社会を実現すべく、私達青年がその牽引役となりたいとの思いから「伝統と誇りを継い、郷土を導く羅針盤となれ！」をスローガンに掲げました。

【渡邊理事長】

当時、私は入って3年目でした。まだよく分からず漠然と聞いているだけでしたが、後になればなるほどその言葉の意味がよくわかってきました。「JCは恩をいただいて恩で返す」という先輩方の言葉が、自分も役を負うことに身にしみてわかってきた気がします。



一番印象に残っていることは

【浅野先輩】

一番印象に残っていることは、「国際アカデミー誘致」に失敗したことです。

【渡邊理事長】

本当に残念でした。ぜひ、今後の皆さんにもその話を伝えてほしいです。

【浅野先輩】

60周年の記念式典の時に作った提言の一つに、「熊本市の国際化」というキーワードがありました。

その最たる取り組みが2013年から予備調査を行い、2014年の総会で誘致を決議した「国際アカデミー誘致」です。2015年度は誘致獲得へと具体的な行動を始めました。全てのメンバーのご尽力のお陰で、予定していた以上の多数の事業実施を通じ素晴らしい成果を残すことが出来たと思っています。しかし、1つだけ宿題として残ったのが、「国際アカデミー誘致」だったのです。これが失敗に終わった事、これが一番印象深く残っています。

【渡邊理事長】

結果的には、すべて良かったのではないかと思います。仮に2016年に誘致できたとしても、熊本地震もありましたし、実施できなかったかもしれません。すべて繋がっているような気がします。翌年、津留理事長が国際アカデミーの開催を勝ち取った際、私もJC会館会頭室に同席しておりましたが、津留理事長が一番最初に浅野直前に連絡されていて喜ばれている姿を目の当たりにした時は先輩方の紡ぐ姿が本当に良かった。私はこの時とても感動し、JCを頑張ろうと思いました。

【浅野先輩】

過去には、全国大会誘致の際に先輩方が何年もかかって血の滲むような想いで誘致を成功されました。やると決めたらやりきる、これも伝統なんですよ。

一番印象に残っている事業と現役メンバーへのアドバイス

【浅野先輩】

もちろん、一番を決めることは出来ません。60周年記念式典そして記念事業はやはり印象に残っていますし、「異文化交流フェスタ」は新たな取り組みとして印象に残っています。その中で青少年育成事業「教育」も印象に残っています。前年に「阿蘇→熊本徒歩の旅」が丸10年を迎え、今年も実施するかという議論があった中、団長も務めたことがありながら、ほぼ私の一存で徒歩の旅の実施を見送りました。これは、やりたくなかったというわけではなく、あえて実施しなかったのです。継続事業は段々とその背景が薄れていくものです。私は、青年会議所とはその時その地域が抱える問題点を探し出し、それを改善する方策を実行していく団体だと思っています。しかしながら継続事業は去年もやったから今年もやりましょうとなってしまいがちです。そこで、今一度、本質から議論を行いたいと考え理事長所信にも幅を持たせた文言としたことを覚えています。今だから言えますが、調査研究議論を重ねた結果、徒歩の旅が間違いないという結果もあったかもしれませんが、ただ、いつもやっているからという理由で事業をやって欲しくなかったのです。

【渡邊理事長】

令和という時代となり見つめ直そうという考えが私もあり、実施を見送ったものがあります。その際には、浅野先輩にも相談に乗っていただきました。このことは歴代の先輩方の事業を否定しているのではなく、その時々の必要な事業を行うことが大切だと思うからです。今年は、青少年育成事業として水サミットを絡めた事業を考えておりましたが、コロナの影響で中止となってしまいました。

【浅野先輩】

コロナ禍において予定していた事業ができなくなったことは悔しいと思います。しかし、先輩方は様々な困難を青年らしい発想力と行動力で乗り越えられてきました。現役の皆様にもきっと乗り越えられるはずですよ。今の時代と地域から必要とされる、事業を自ら考え実施して欲しいです。特定の分野に特化した団体とは違い、明るい豊かな未来の実現に繋がるのであれば、何でも挑戦できることがJCの良さですからね。

【渡邊理事長】

確かにそうですね。

【浅野先輩】

現役メンバーの皆さんには、熊本青年会議所という伝統を造り上げて頂いた先人の恩に感謝しつつも、育てて頂いた自分達が住み暮らす地域や関係する全ての方々と、そして家族への恩に報いるべく、その伝統と誇りを胸に青年らしい行動で次代へと想いを紡いで頂きたいと思います。



2016

(平成28年)



至誠

～繋がりをもって変革を為せ～

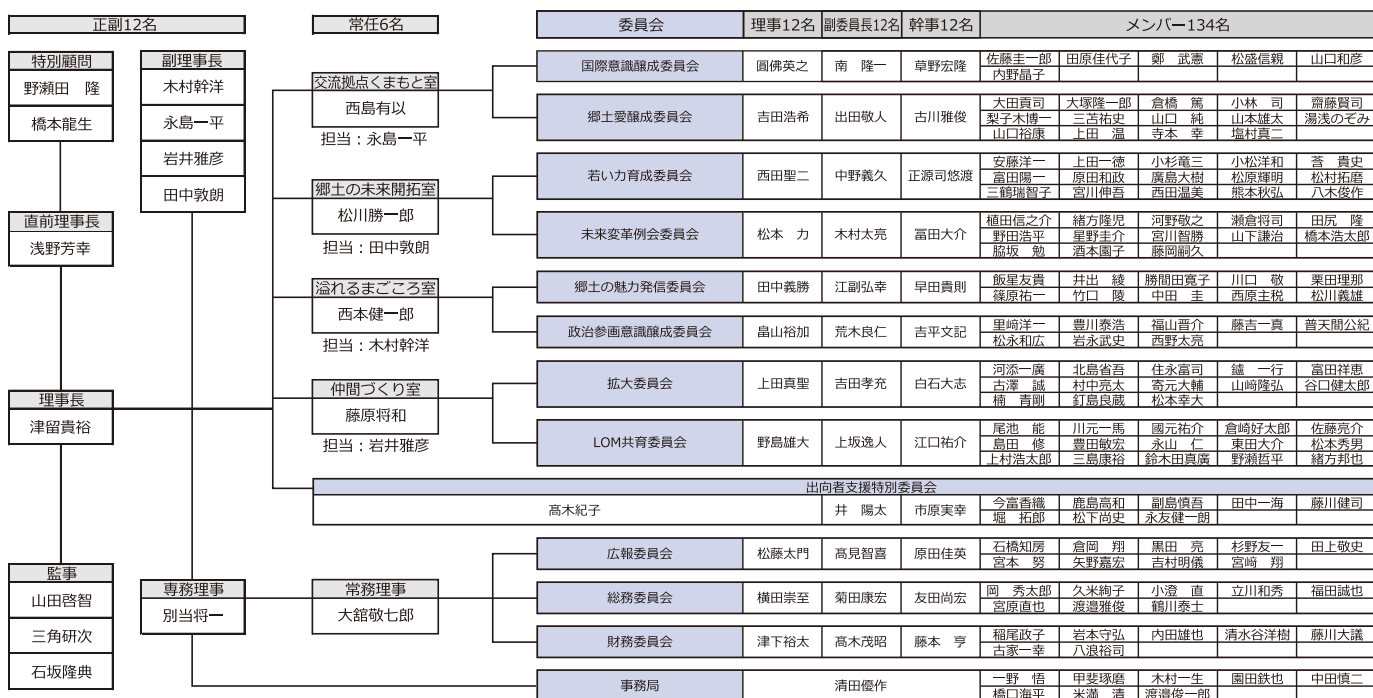


第62代理事長
津留 貴裕

主な事業内容

1月 ■新年パーティ ■1月例会～すべては至誠からはじまる～ ■2016年度京都会議	7月 ■第29回 国際アカデミー IN 水戸 ■サマーコンファレンス2016 ■7月例会～震災に立ち向かう熊本JCの記憶～ ■7月臨時総会 ■九州地区大会2016 鹿屋大会
2月 ■2月定時総会 ■2月例会 郷土を変革へ導くために～今、青年ができること～	8月 ■8月例会～熊本復興に皆で立ち向かう！～
3月 ■3月例会～くまもとの魅力再発見！～ ■「春のお城まつり」支援事業 ～蘇る熊本城 完全復活～	9月 ■9月定時総会 ■9月次年度継承例会～繋ぐ想い～
4月 ■第2回 多文化交流フェスタ～国際交流の輪を広げよう！～ ■熊本地震 発災 ■災害支援活動(炊き出し・支援物資配送・がれき撤去) ■4月例会～郷土のために、今出来ること～	10月 ■第65回 全国大会広島大会 ■第49回 熊本ブロック大会 in 山鹿 ■10月例会～私たちはなぜ出向するのか～
5月 ■災害支援活動(支援物資配送・がれき撤去) ■5月例会～復興に向けて歩みだそう～(益城町避難所 炊き出し) ■第35回 全国城下町シンポジウム 彦根大会 ブース出展	11月 ■2016年JCI世界会議ケベック大会 ジャパンナイトブース出展 ■大西熊本市長ローカルマニフェスト公開検証会2016 ■11月例会～2016年度JC活動で得た学び～ ■熊本地震復興支援事業 くまもと復興祭-Light of Hope-
6月 ■災害支援活動(がれき撤去) ■第66回 ASPAC高雄大会 ジャパンナイトブース出展 ■6月例会～郷土誇りを取り戻そう～	12月 ■青少年育成プロジェクト 蘇る熊本城～ぼくらが一本城主～ ■第25回 水環境会議～今後の熊本のために～ ■12月卒業例会～至誠と感謝～ ■第50回 熊本県立盲学校生徒招待アイススケート

2016年度組織図



主な事業風景



熊本地震 災害支援活動



熊本地震復興支援事業
くまもと復興祭-Light of Hope-



青少年育成プロジェクト
蘇る熊本城～ぼくらが一本城主～

2016年度
年間活動報告書



創立65周年 特別記念対談

歴代理事長



第62代 理事長
津留 貴裕 先輩
×

第66代 理事長
渡邊 俊一郎 君

スローガンにかける想いと代表的取り組みについて

【渡邊理事長】

スローガンにかけた想いについてお聞かせください。

【津留先輩】

基本的には人間もJC活動も、誠実で、自分や世の中がこうあってほしいという思いがなければ成り立ちません。そういう意味では、私がスローガンに掲げた「至誠」という言葉は、自分の目標を決めるための心の置き方だと思うんです。私は、JCに入った2009年から卒業までの10年間、どういう姿勢を貫いていけば物事を遂行した時に気持ちいいものなのかを考え続けました。心に疑問が湧いたままでは、事業をやっても楽しくないですし、学びも少ない。その点で、私は自分の心に「至誠」が生まれている状態である時が一番気持ちよかったです。だからJCメンバーの皆さんにその心を常に持ってほしいという思いを込めてスローガンとしました。

【渡邊理事長】

代表的な取り組みについて教えてください。

【津留先輩】

国際アカデミーの誘致があげられると思います。これについては少し歴史の方から語らせてください。当初は2015年に浅野理事長の想いのもと、前年から熊本開催に向けて動き出していました。しかし残念ながら、戸戸青年会議所の開催という結果となりました。翌年私が理事長を務めましたが、私自身卒業まで残り1年しかない状況でしたので、私が未来を決めるのではなく、今後JCを紡いでいくメンバー達の考えを尊重したいと思い、尋ねてみたところ、「ぜひ開催に向けて頑張りたい。世界中回って熊本ここにありということを証明しましょう」との声が返ってきました。そのため2017年の熊本開催を見据え、2017年は国際アカデミーの誘致を目標としました。早速、4月3日に国際交流事業を行いました。しかし、その直後に熊本地震が発災し、それから半年間は災害支援・復興にすべての時間と労力を注ぎ込む事となりました。この災害の中において、果たしてこのまま国際アカデミー誘致を行うべきか、葛藤がありました。全体としては一旦諦める方向だったのですが、私はむしろJCはこの被災した状況でも街のエネルギーとして立派に立ち上がり、これから街が復興していく様子をいち早く市民に提言していく集団であることを世界に発信するべきだと感じていました。その想いのもと、2016年は災害支援を続けながらASPACやニューヨークの国連本部での会議にも出席し、誘致活動を行いました。そしてついにその年の10月、熊本での開催を誘致する事が出来ました。



理事長をされた1年間を振り返って一番印象的だった出来事

【津留先輩】

一番印象的だったのは、やはり熊本地震です。みんな本業というものを抱えている状況で、災害支援活動もそれぞれJCとしての立場でやってくれました。JCの災害支援活動も最初は数人程度だったものが、後に100人以上となりました。それも嬉しかったのですが、私はそのJCの災害支援活動を行わずとも、自分の本業で地域貢献を行うのであれば、それも立派な支援活動だと伝えていました。その後も様々な形で地域の復興のために尽力するメンバーの姿は、ただ被災した側ではなく、本業を通して地域の方たちに何か出来ないかと考えてくれた結果だと思っています。

【渡邊理事長】

私もなかなか災害支援に行けなくて申し訳ないという気持ちがある中で、津留先輩から「本業を通して街の支援活動をしてください。」と言われ救われました。その後は、自分の出来る範囲で活動しようと動きまわりました。するとある日、被災したおばあさんから感謝の言葉をもらって瞬間があり、地域のための活動が出来ているんだと感動したことを覚えています。

【津留先輩】

JC活動で強制的にやらされたという受け身の活動では、情熱も達成感も生まれないと思います。もちろん被害の大きさから本業もストップし、支援活動が出来なかった人達もいる事でしょう。ただ、そこにJCとしての活動をやるだけではなく、辛うじて生き残った機能で地域貢献しようという精神がある事が大事だったと思います。だから私はどちらかというとJCとしての災害支援活動より、本業を通したメンバーの地域貢献活動にすごく良い印象が残りました。



熊本JCの現役および未来のメンバーに向けて一言

【津留先輩】

自分の使命感が生まれるJC活動にして欲しいです。自分が疑問に思うような事業であったりするならば、諦めない思想を持って意見をぶつけるべきだと思います。そして、その発言に見合った行動をとる事で、自分の成長にも繋がると思います。失敗しても良いのです。JCは成長期間としての年齢制限がある団体なので、漫然と在籍せずに何かしらプラスを産んで欲しいと思います。また、JCは関係性を育める環境です。広く浅くしか付き合えない人には信頼関係は築かれませんか。そこに本気で向き合っていく事で、人間同士の深みのある関係性が築けると思います。これはこのJCで得た何にも代えがたい私の財産です。ぜひ現役の皆さんにはそういったJCでの過ごし方を意識してもらえればと思います。

2017

(平成29年)



萬有愛護

感謝を基底に全てに臨め



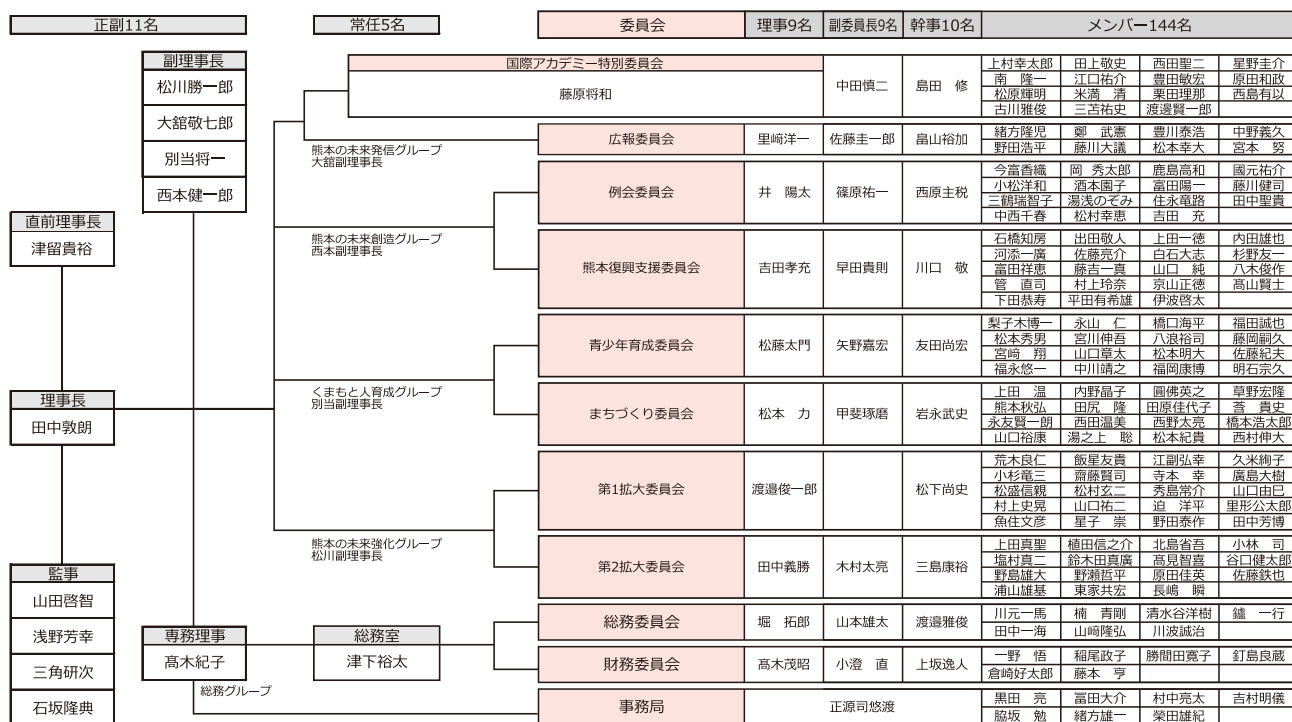
第63代理事長

田中敦朗

主な事業内容

1月	■新年パーティ ■1月例会～方向性を一にしよう～ ■2017年度京都会議	7月	■第30回 国際アカデミー in 熊本 ■7月例会～大切な人と共に学ぼう～ ■サマーコンファレンス2017
2月	■2月定時総会 ■2月例会～繋げよう未来～	8月	■8月例会 ～知って繋がるまちづくり～ ■九州コンファレンス2017 in 久留米
3月	■3月例会～進取の精神が創る、愛する郷土くまもと～	9月	■9月定時総会 ■9月例会～未来への架け橋～ ■第66回 全国大会埼玉中央大会
4月	■4月例会～現状からみえる課題～	10月	■10月例会～復興のその先へ～
5月	■5月例会～今こそ結束力を～ ■第36回 全国城下町シンポジウム福井大会	11月	■2017 JCI世界会議 アムステルダム大会 ■大西熊本市長ローカルマニフェスト公開検証会 ■11月例会～己の活動に誇りをもって～ ■青少年育成事業 くまもとと城下町インタナショナルキッズガイドツアー～僕らは国際親善大使～
6月	■2017 JCI ASPAC ウランパトル大会 ジャパンナイトブース出展 ■6月例会 ～第39回国際アカデミー inくまもとを成功させるのはオレたちだ！～	12月	■12月例会～羽ばたく20の愛に感謝～ ■第51回 熊本県立盲学校生徒招待アイススケート

2017年度組織図



主な事業風景



第30回 国際アカデミー in 熊本



大西熊本市長
ローカルマニフェスト公開検証会



青少年育成事業
くまもとと城下町インタナショナルキッズガイドツアー
～僕らは国際親善大使～

2017年度
年間活動報告書



創立65周年 特別記念対談

歴代理事長



第63代 理事長
田中 敦朗 先輩
×

第66代 理事長
渡邊 俊一郎 君

スローガンにける想いと代表的取り組みについて

【田中先輩】

スローガンは「萬有愛護～感謝を基底に全てに臨め～」でした。「萬有愛護」とは、合気道の開祖である植芝盛平翁の言葉である「萬有愛護の大精神を以て、自己の使命を完遂することこそ、武の道であらねばならぬ。」から用いました。この言葉に宿る、全てあるものを愛し守るという精神を、奉仕の精神を元に地域を考え行動するJCメンバーと共有したいという想いとお客さんや家族・社員など、自分の周りの理解があって初めて自分自身が活動できるということに感謝の気持ちを持ってもらいたいという想いが込められています。また、感謝をするためには自分自身や地域、団体のことを知らないといけません。ご先祖様とか、自分のまちの歴史とか、何よりも先輩方がこれまで活動してきたからこそ自分たちは活動できていて、多くの団体や行政からも信頼を得ていることを忘れずに活動してもらいたいという思いを込めました。

【渡邊理事長】

私も、JC活動は家族・仕事の優先順位を超えずにバランスを取りながら最大限に行うこと、特に、コロナ禍の今だからこそ家族を一番大切に考えて判断して欲しいと発信しています。先輩方からも、その年その年の教をいただいて、それが自分の自己成長になっていますし、それをまた私もメンバーに伝えながら、次の70年に繋げていきたいと思っています。

理事長をされた1年間を振り返って一番印象的だった出来事

【田中先輩】

1年を通じてメンバーには様々な活動をしてもらい、本当に感謝しています。色々な思い出もあるのですが、特に印象的だったのはやはり「第30回国際アカデミー in熊本」です。80人弱の全世界各国から集った海外メンバー、100名以上の全国各都道府県のJCメンバーが熊本に來られて、参加者が成長を遂げ、友情を育むことのできたこの事業の達成は、熊本JCが改めて誇れる団体であると確信した出来事となりました。内容も含め、インパクトのあるポジティブチェンジ事業だったと思います。

【渡邊理事長】

私は、65周年の冊子を作ることで先輩たちのこれまでの事業活動や思いを伝えたいです。また、形としても残したい。記念式典をなぜするのかという意味を皆様に知っていただき、熊本JCの良さを更にもっと知っていただきたいと考えています。

【田中先輩】

次に失敗したことで思い出すのが福井の新年パーティの挨拶です。準備してきたつもりが、頭が真っ白になり、今でも仲良きさせていただいている辻理事長のスローガンが頭から飛んでしまいました。慢心していたのでしょうか。今でも思い出して反省しています。また、対照的に総会で全国の理事長の700人の前で国際アカデミーの良さを伝えるときは震えが来ましたね。

【渡邊理事長】

全国を回り、また、全世界中を回り色々なところで挨拶をされていたことが印象的でした。

【田中先輩】

また、渡邊理事長との思い出は2016年に2017日本JCへの出向を依頼したことですね。

【渡邊理事長】

月に1回と言われていたのですが実際は月に3回くらいになっていましたね。

【田中先輩】

そんな状況でも渡邊理事長が「出向してよかった」と言って、感謝してくれたことは非常に嬉しかったです。

【渡邊理事長】

何故、私に出向の依頼をされたのですか？

【田中先輩】

渡邊理事長は出向の依頼を受けたら、ちゃんと全う出来る人だと確信していたからです。逃げ出すことなく、絶対やるという責任感のある男ですし、また周りの方々からも可愛がられる存在だとも思いましたので。

【渡邊理事長】

田中先輩と津留先輩が後押しをしていただき、導いてくれたからこそ今の私があると思います。また、JCに対する意地もあったと思います。約束を守ること(信義)が大事だとも思います。

熊本JCの現役および未来のメンバーに向けて一言

【田中先輩】

熊本の中で、若い感性、知識、体力をもった20～40歳の人たちが集まり、家族と仕事の時間の合間を縫って真剣に熊本の未来を考え会議を重ね、事業構築を全うし、実行している団体は他にはないといっても過言ではありません。青年会議所活動が地域の未来を拓き、自分たちの成長と友情につながっていくことを自覚して欲しいと願います。自覚することで一生懸命に活動したことを誇りに思えるようになります。その誇りをもとに、更に今後の若い方々にも胸を張ってJCの良さが伝えられるはずです。これからも、家族・仕事のバランスを整えながら、自信と自覚をもって活動して下さい。

【渡邊理事長】

田中先輩の思いを全メンバーに伝えていきたいです。JCには誇りがある。いろいろな方々との出会いがある。全国、全世界の方々と出会えるネットワークはJCでしかできないと考えています。私も自覚と自信をもって活動していきたいと思っています。

【田中先輩】

自分自身の成長と変化を、喜びと感じられる人が増えてくると良いですね。



2018

(平成30年)



歴史を継承し、 個性が輝くJCたれ

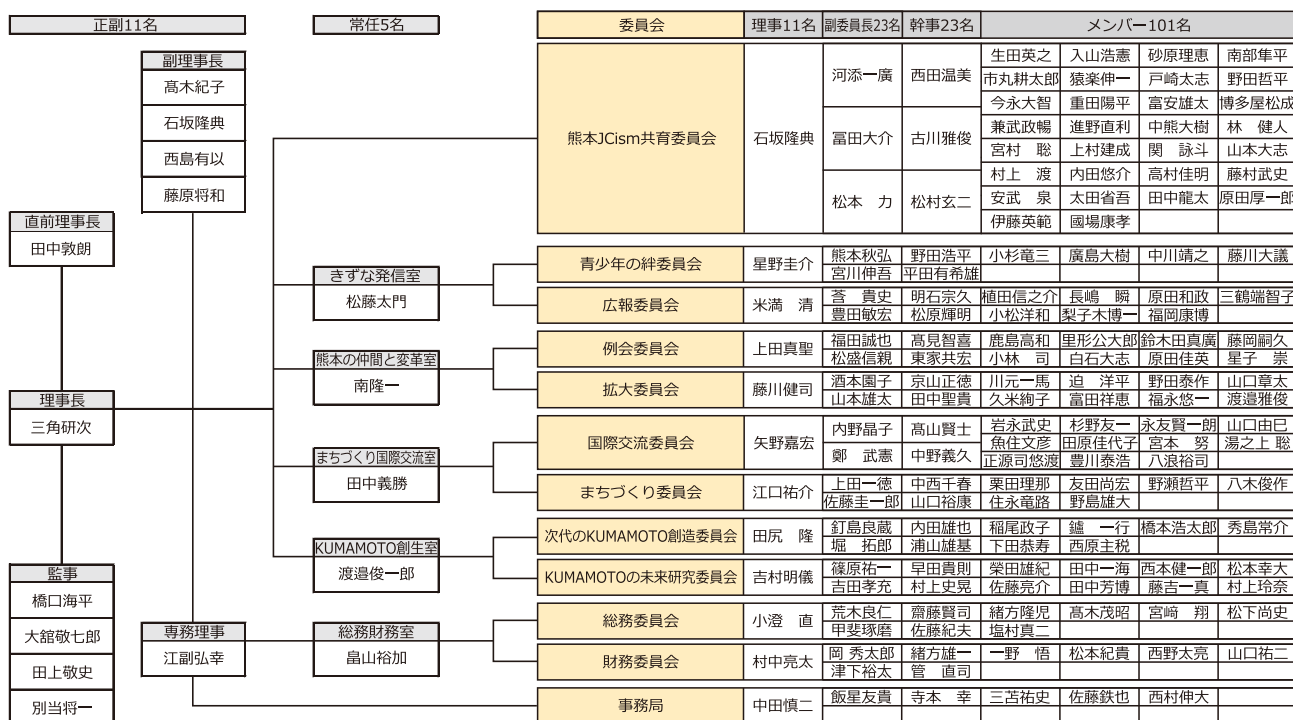


第64代理事長
三角 研次

主な事業内容

1月	■新年パーティ ■1月新年例会 ■1月定時総会 ■2018年度京都会議	7月	■新入会者事業 熊本県立盲学校生徒招待ボウリング大会 ■7月例～これまでの歴史を振り返りその思いを未来へ繋げよう～ ■延岡JC共同事業 九州中央自動車道 MichiFes みちフェス ■サマーコンファレンス2018
2月	■2月定時総会 ■2月例会～JCの魅力を発信できる人になろう～	8月	■8月徒歩の旅決起例会～one time one is 無限大～ ■第11回 阿蘇→熊本 徒歩の旅
3月	■3月例会～熊本の未来を決める模擬投票2018～	9月	■九州コンファレンス2018 in 天草 ■9月定時総会 ■9月例会～未来への継承～
4月	■4月例会～熊本防災フェスティバル～	10月	■第67回 全国大会宮崎大会 ■10月例会 大西熊本市長ローカルマニフェスト公開検証会 ■熊本市長選挙マニフェスト型公開討論会
5月	■第51回 熊本ブロック大会 in 菊池 ■国際青少年事業 学校訪問プログラム(タンジュンブンガJC 来熊) ■第37回 全国城下町シンポジウム松江大会 ■5月例会～交流を深め団結を～ ■2018 JCI ASPAC 鹿児島大会 ジャパンナイトブース出展	11月	■2018 JCI世界会議 インド ゴア大会 ■11月例会～各々が地域防災のリーダーたれ～
6月	■6月例会～厄入り～	12月	■12月卒業例会～尊尚親愛～

2018年度組織図



主な事業風景



4月例会～熊本防災フェスティバル～



国際青少年事業
学校訪問プログラム(タンジュンブンガJC 来熊)



第11回 阿蘇→徒歩の旅

2018年度
年間活動報告書



創立65周年 特別記念対談

歴代理事長



第64代 理事長
三角 研次 先輩
×

第66代 理事長
渡邊 俊一郎 君

スローガンにかける思いと代表的取り組みについて

【渡邊理事長】

スローガンにかけた思いと代表的な取り組みについてお聞かせください。

【三角先輩】

私は、『歴史を継承し個性が輝くJAYCEEたれ』というスローガンを掲げました。

『歴史を継承する』という言葉は、当時、熊本青年会議所会員数がどんどん減少し、様々な時代が変化していく中で、過去の先輩方が行ってきた素晴らしい熊本JCの歴史や、野瀬田先輩が言われた熊本JCイズムというものを継承しつつも、JCも時代の変化にあわせて変わっていかなければならない、そういったタイミングなのではないかという思いを込めて、この言葉を使わせていただきました。つづく『個性が輝く』という言葉には、JCメンバー各々の個性が互いに切磋琢磨しながらよりいっそう輝き、それらが同じ方向を向くことで、素晴らしい一年間にしたいという思いを込めました。

【渡邊理事長】

私は、三角先輩が理事長を務められた年に、常任理事を担わせていただきました。当時は、前年度に行われた国際アカデミーが終わり、今後の熊本JCの方向性をどうするべきか、メンバーが迷っていたように感じます。そのような時に、『阿蘇→熊本徒歩の旅』の復活という一つの方向性を示していただけただけで、改めて熊本JCが一つにまとまったのかなという印象を受けています。

【三角先輩】

今、渡邊理事長が言われたように、私の代表的な取り組みとしては、徒歩の旅の復活があげられるかと思います。私が理事長になる前は、2014年に全国城下町シンポジウム、2015年に60周年記念事業、2016年に熊本地震の防災、2017年に国際アカデミーと、大きな出来事が続いた後でした。だからこそ、メンバーが一つになるような事業を行いたいという想いで、徒歩の旅を復活させました。徒歩の旅は2005年から10年間続けてきた事業で、私は入会した2006から9年間、この事業に携わってきました。この事業を通しての様々な修練の中で、いろいろな友情が芽生え、この事業こそ熊本JCを代表するような事業だと思っています。



理事長をされた1年間を振り返って一番印象的だった出来事

【渡邊理事長】

理事長としての1年間を振り返って一番印象的だったことはいかがでしょうか。

【三角先輩】

私が理事長を務める前年に、国際アカデミーがありました。そのとき、私は日本JCに出向していたこともあり、様々な国を訪れる中で、翌年理事長として国際の機会に触れるイベントが出来ないかという想いを抱くようになりました。そこで私は、姉妹JCであるタンジュンバングJCを熊本にお招きし、ホームステイプログラムや学校訪問プログラムを開催しました。担当の委員会は苦労したと思いますが、メンバーや一般の方、子供たち、ホームステイを受け入れた家族にとっても、国際の機会に触れるという素晴らしいチャンスを得ることができたと思います。

【渡邊理事長】

学校訪問プログラムでは、マレーシアの人たちが民族衣装を着て、異国の文化を一生懸命子供たちに伝えていただきました。後日には、鹿児島県でASPACが開催され、宮崎県でも全国大会が開催されました。ASPACが九州で開催される事は稀で、貴重な機会をいただきました。三角理事長の時代は様々な各種大会が九州で開催されましたので、『九州YEAR』と言われていたのを思い出しました。大変楽しい1年間でしたね。

【渡邊理事長】

三角先輩が熊本JC在籍中、この事業はすごかったというものはありますか。

【三角先輩】

2016年津留理事長の時にに行った白川での復光祭は素晴らしい事業だったと思います。たまたま私の地元での開催だったということもあり、地元の方々からお褒めの言葉をいただいたのを記憶しています。当時、私は監事という役割上、客観的に見ておりましたが、地域の方々や熊本市民に元気を届けた素晴らしい事業だったと思います。また、あの時撮ったJCメンバーの集合写真がありますが、おそらく当時のメンバーが全員写っているのではないかなと思います。これこそJCメンバーみんなで活動した事業だといえるのではないのでしょうか。

熊本JCの現役および未来のメンバーに向けて一言

【三角先輩】

JCがなぜ40歳までの団体なのかと考えると、40歳までしか出来ない活動をしているためだと個人的に思います。JCは失敗しても良い団体です。失敗を恐れずにいろいろなことを積極的にやってほしいと思います。私も13年JCにいて、誰よりもJCで活動をした自負があります。若いメンバーには積極的に様々な活動を通して地域貢献をすると共に、多くの友情を育んでほしいと思います。また、私自身仕事で忙しい中、時間を見つけてJC活動をしていました。一生懸命仕事をして、JC活動をして、家族との時間を過ごすから楽しいのだと思います。現役の方には一生懸命JC活動を楽しんでほしいです。そして、今年卒業される皆様には後輩メンバーにJCの良い所を伝えていって頂きたいと思います。

2019

(令和元年)



成長を楽しみ、
新時代の扉を開けよう

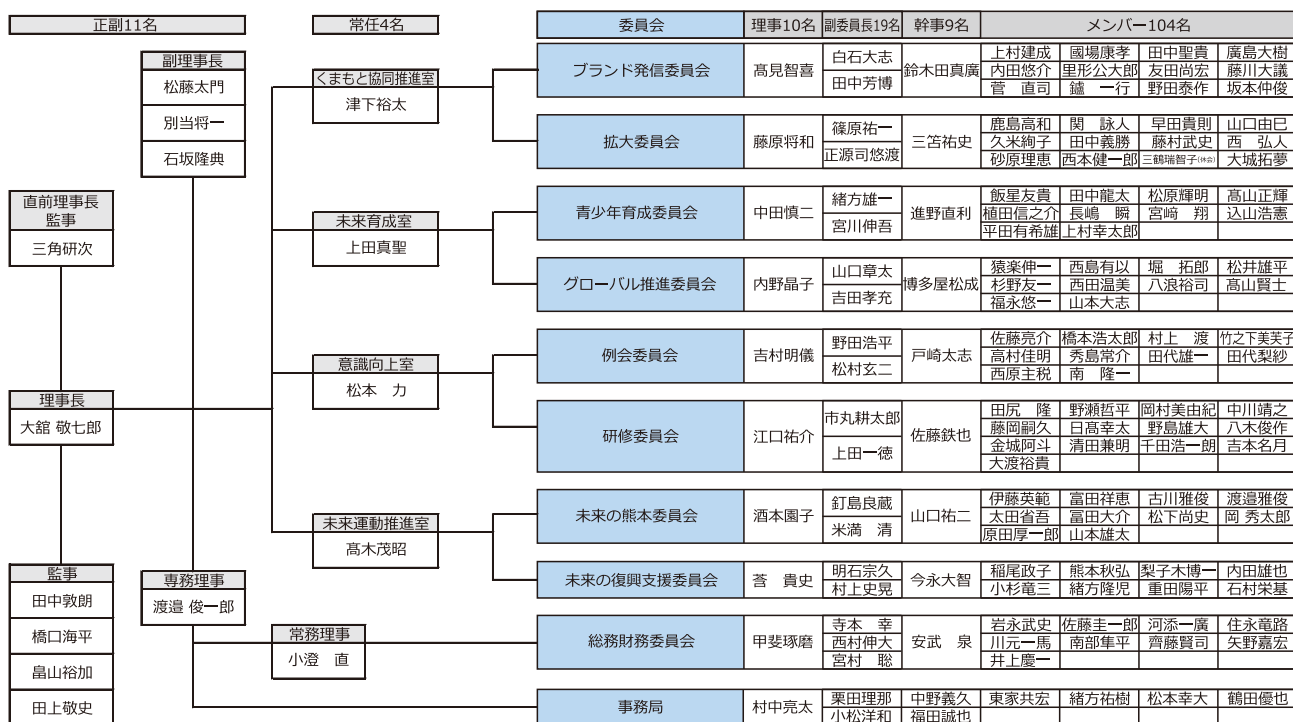


第65代理事長
大館敬七郎

主な事業内容

1月	■新年パーティ ■1月例会～ここから始まる新たな挑戦～ ■2019年度京都会議	7月	■7月公開例会～意識改革～結果を出すリーダーの成功哲学 ■サマーコンファレンス2019
2月	■2月定時総会 ■2月例会～プランディング～ ■第52回 熊本県立盲学校生徒招待アイススケート事業	8月	■8月徒歩の旅決起例会～さあ、共に歩こう！～ ■第12回 阿蘇→熊本徒歩の旅
3月	■3月例会～自己成長と学び～ ■学習型青少年事業 ～過去に学び、現在と向き合い、未来につなぐ～修学旅行 in 知覧	9月	■9月定時総会 ■9月例会～次年度への継承と決意～ ■九州北部災害支援活動
4月	■4月復興例会～できるしこ歩もう、熊本の復興へ～	10月	■秋のくまもとお城まつり～復興に向けた「書」と「祭」の共演～ ブース出展・ステージ企画 ■第68回 全国大会富山大会 ■10月例会～マニフェストのいま～ ■九州北部災害支援活動
5月	■5月例会 「正論」はひとつではない！ディベートを通し多角的な考え方を学ぶ ■第52回 熊本ブロック大会 in 宇城 ■九州コンファレンス2019 in 大村 ■LOM内コンペティション事業 全国都道府県対抗 eスポーツ選手権 2019IBARAKI国体予選熊本大会 ■2019 JCI ASPAC 済州(チェジュ) ジャパンナイトブース出展 ■6月公開例会～Transmission～ ■第38回 全国城下町シンポジウム豊橋大会	11月	■2019 JCI世界会議 タリン大会 ■くまもと市民ボランティア週間 九州中央自動車道建設促進支援事業 ■大西熊本市長ローカルマニフェスト公開検証会2019 ■11月例会～持続可能な開発目標(SDGs)～
6月		12月	■LOM内コンペティション事業 2019女子ハンドボール世界選手権大会 支援事業 ■12月卒業例会～感謝～

2019年度組織図



主な事業風景



学習型青少年事業
～過去に学び、現在と向き合い、未来につなぐ～
修学旅行 in 知覧



4月復興例会
～できるしこ歩もう、熊本の復興へ～



大西熊本市長
ローカルマニフェスト公開検証会2019

2019年度 年間活動報告書



創立65周年 特別記念対談

歴代理事長



第65代 理事長
大館 敬七郎 先輩



第66代 理事長
渡邊 俊一郎 君

スローガンにける思いと代表的取り組みについて

【渡邊理事長】

スローガンにかけた思いと代表的な取り組みについてお聞かせください。

【大館先輩】

昨年がどのような時代であったかという、誰もが最初に連想するのは平成の世が終わり新たに令和時代の幕が開けた年であったことかと思います。私が掲げたスローガンは【成長を楽しみ新時代の扉を開けよう】というものでした。時代がもの凄いスピードで変化していく中で、環境問題や国家間の対立、人間社会を脅かすほどのテクノロジーの進化、SDGs推進が世界中で広く提唱されていることから、人類は持続可能かどうかの瀬戸際に立たされていると感じていました。そのような時代だからこそJCを通じて様々なことに挑戦し自分自身が成長することで、自分もJCも社会に対しても可能性を広げて行こうという想いでこのスローガンを掲げました。

また、青年会議所においても持続可能かということは大きな問題になっています。会員数の減少です。私はJCに感謝していますし、こんなに機会に恵まれた団体は他にはないと思っています。社会に対しても素晴らしい活動をやっていることはメンバーであれば周知の事実と思いますが、外から見たときにJCはなくてはならない団体だから入会してみたい。と、思われているのかと正直感じていました。それを感じた時に今までの拡大活動を推し進めるのではなく、共感を生み、入会したい人が増える団体とはどのようなものかを考える一年にしたかったです。それによって会員が結果増えている状態になっていれば素晴らしいなと。

【渡邊理事長】

私たちが地域の皆様に対して素晴らしい活動をやれていたなら勝手に拡大していくはずといつも言われていましたね。私自身は対内的な話も少ししていましたが、大館直前と基本的な考えは似ています。強引に入会しませんが言って拡大するのは、入会してから継続性が弱いのではないかと。

【大館先輩】

渡邊理事長は昨年専務として、よく考えを理解してくれて動いてくれました。ただ結果がほとんど出ずに、結局は絵に描いた餅で終わってしまったことは悔しいですね。

理事長をされた1年間を振り返って一番印象的だった出来事

【渡邊理事長】

2019年度は多くの事業をさせていただきましたが、大館理事長にとって一番思い入れのある取り組みはなんですか？

【大館先輩】

拡大の在り方以外にも挑戦したい事がありました。青年会議所の運動は、まず理事長所信があってそこから組閣していく、所謂トップダウンの構造になっています。トップダウンというのは、現在でも素晴らしい組織の在り方だとも思いますが、これだけ変化のスピードが速いと一年間を見据えて計画することが果たして本当に適切かと考えていました。毎年、何らかの自然災害が起き、今年は新型コロナウイルスが世界中に広がるという未曾有の事態となっています。

そのような中でどのようなJCの在り方が時代に即しているかを考えた時に、組織図、つまり委員会を無くしてはどうかという構想がありました。昨年の日本JCの鎌田会長もJC運動がアメーバのように拡大して行くactive citizenというものを提唱されたように、よりよい社会を目指している会員の集まりなのであれば、各々が考えスピード感を持って問題解決に挑む。そのような組織を目指し、より自発的に活動して欲しいと。ただそれに挑戦するには、もしかしたら一年間で何も事業が出来ないかも知れない。そう思って、今年渡邊理事長も取り入れておられる「LOM内コンペティション」という受け皿を作って一部実現できました。渡邊理事長も、委員会を無くそうと思っていると聞いた時には、何を言っているんだと思ったことでしょう(笑)

【渡邊理事長】

そうですね。最初は正直分からなかったです。それまで大館直前理事長とは同じ委員会になったこともなければそんなに交流も無かったので、2019年度の専務をやってほしいとお願いされたときは正直迷い考えましたが、専務として色々話をするなかで、大館理事長がやりたい1年になるよう熊本JCを作りたいと思うようになりました。「LOM内コンペティション」の仕組みも本年度も踏襲し、コロナウイルス感染対策となる事業を行ないました。これはもちろん所信と年間計画を掲げたときには無かったことです。本年度も私たちはその時々で必要なことを判断して、地域の為にできることを実行していることはメンバーの誇りになっていると感じています。

【大館先輩】

質問にありました代表的取組を挙げるのは難しいですが、敢えていうとactive citizenが実現できたことと思います。渡邊理事長も専務として勢力的に動いてくれて、確か一日に四つか五つの事業が同時に行われていたという日があって、そのことが特に印象的で目的が達成できたような気持ちになりました。その時にも渡邊理事長が、「今日は何力所でも熊本JCが活動している。凄いことですね!」と言ってくれたことが本当に嬉しかったですね。

※「LOM内コンペティション」

委員会の垣根を越えてメンバーが集まり、理事会に事業企画を上げることが出来る仕組み。別途LOM内コンペティション用の予算を設けており、JCの理念に沿った事業であれば理事会の承認を受け、実行できる。



熊本JCの現役および未来のメンバーに向けて一言

【大館先輩】

現役メンバーの皆さん、JC活動楽しんでますでしょうか。私自身、昨年に卒業しまして現役時代がどれだけかけがえのない時間であったかを感じています。本当に30代の青年期でJCと向き合えたことは人生の財産となりました。卒業して思うことは、「卵が先か鶏が先か」という言葉がありますが、JCにおいてはこの因果性は決まっているということです。JCの事業には必ず「対外的」と「対内的」がありますが、「対外的」達成を目指した先に「対内的」の達成があります。青年会議所はJCI CreedやJCI Vision, Misson, JC宣言や綱領にあるように達成すべき目的がある団体です。団体の為の団体であってはいけません。これからも目指す方向を間違わず、地域に必要な団体であり続ける先に、熊本青年会議所の発展があることを願っています。悔いの残らないJCライフを過ごし、成長を楽しんで下さい!

5年間の歴史/2015-2019







JCI Junior Chamber International Kumamoto
一般社団法人 熊本青年会議所
創立 65 周年記念誌

【発行日】2020年11月23日発行

【編集者・発行者・デザイン・制作】一般社団法人 熊本青年会議所 65周年記念委員会
[65周年記念委員会メンバー]

南隆一(副理事長)・米満清(室長)・市丸耕太郎(委員長)・上田一徳(副委員長)・江口祐介(副委員長)・田代梨紗(幹事)
井上慶一・金城阿斗・日高幸太・大渡裕貴・千田浩一朗・松本幸大・緒方佑樹・野瀬哲平・八木俊作・井藤はづき
上村浩文・小田剛聖・宮村将之・村本聡一郎

【翻訳協力】内野晶子 先輩・鄭 武憲 先輩・出田広大 (熊本青年会議所メンバー)

【印刷・製本】大和印刷所 株式会社